

市町村名	南城市
------	-----

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1 -	市域景観形成強化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ
担当部課名	土木建築部 都市建設課	事業実施(予定)年度	平成24～26年度	観光客の受入体制の整備
			沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(1)

事業内容
魅力的な観光地、まちづくりを形成するため、市内の道路・歩道のカラー舗装、コンクリート吹付等の工法を用いて、市道の景観形成を行う。また周辺の空きスペース等には地域住民による色彩豊かな花の植栽等の緑化活動を実施する。

実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	10,010		10,003	10,000	
	(b)予算現額	10,010		10,012	10,000	
	(c)増減額(b-a)	0	0	9	0	
	(d)繰越額	-	4,001	-	-	
	A.計(b+d)	10,010	4,001	10,012	10,000	
	B.執行済額	6,009	4,001	10,012	9,525	
	うち交付金充当額	4,807	3,193	8,000	7,620	
	次年度繰越額	4,001	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)	60.0%	100.0%	100.0%	95.3%	
予算の状況の説明	475千円の不要額が生じているが、入札残のためである。当初計画していた事業計画は、すべて実施したので活動目標、成果目標の達成状況は適正であったと考える。					

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
		市道植樹帯防草工事実施	目標 (整備路線1箇所 整備延長 L=0.8km)	(整備路線2箇所)	(整備路線1箇所 整備延長 L=0.597km)
	実績 (整備路線1箇所 整備延長 L=0.8km)	整備路線2箇所	整備路線1箇所 整備延長 L=0.597km		
	目標 ()	()	()	()	
	実績				
達成状況説明	歩道にある植樹帯の雑木等を伐採してコンクリート舗装を行うことで、活動目標(指標)が達成できた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
		市道植樹帯防草工事実施完了 整備路線数 1路線	目標 ()	(整備路線1箇所)	(整備路線2箇所)	(整備路線1箇所)	()
			実績	整備路線1箇所	整備路線2箇所	整備路線1箇所	
		整備延長 L=597m	目標 ()	()	(整備延長 L=0.8km)	(整備延長 L=0.597km)	()
	実績		整備延長L=0.8km	整備延長L=0.597km			
進捗状況説明	平成24年度においては、1インホテル沿いの整備、25年度は、グスクロード公園沿いの整備、26年度は、沖縄ワールド周辺の整備が完了し、今後は、行政と地域住民による維持管理を行っていきたい。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本路線には、植樹帯が数多くあり草が生い茂って通行に支障をきたしているため防草工事の要望が地域からあり、観光名所の拠点である前川地区の主要な道路を、この事業を活用し防草工事の整備を行うことで、玉泉洞にふさわしい道路景観を創出し拡充を図ることが必要である。	交付金を活用し整備を重点的に行うことにより、協働のまちづくりが進められるとともに沖縄らしい魅力的な観光振興につながる。
今後の取り組み方針		
おきなわワールド(文化王国玉泉洞)という地域特性、文化的な地域景観資源を活用しながら、地域住民(自治体)への良好な景観形成に対する意識の高揚を図りつつ、地元への愛着と誇りを高め、安心して歩行者や車両の通行ができる。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
	9,525	9,525	7,620	1,905	0
<pre> graph LR A[南城市 9,525千円] --> B[工事費 9,525千円] B --> C["(有)秀通建 9,525千円"] C --> D[景観形成強化工事] </pre>					

資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支出先は、指名競争入札により、業者を選定しており妥当と考えている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	入札により予算の執行残が発生したが、事業内容に対しては適正な規模であったと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について支出等に関する書類により確認、適正であった。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南城市
------	-----

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1 - 世界遺産「斎場御嶽」周辺整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ
担当部課名	教育部 文化課	事業実施(予定)年度	平成24～26年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備
			- 1 - (1)

事業内容	散策道、木製階段等を整備し広く一般公開することにより、世界遺産「斎場御嶽」の更なる魅力を伝え、観光客等誘致促進を図る。
------	---

実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()
------	-----------------------

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	91,835	24,501	29,314		
	(b)予算現額	91,835	24,501	29,314		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	-	-	-		
	A.計(b+d)	91,835	24,501	29,314		
	B.執行済額	89,187	24,501	26,363		
	うち交付金充当額	71,349	19,600	21,090		
	次年度繰越額	-	-	-		
	執行率(%) (B/A)	97.1%	100.0%	89.9%		
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。不用額2,951千円については、委託の入札残等によるものである。					

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度
		世界遺産「斎場御嶽」周辺整備 ・石畳参道及び戦争遺跡修復工事 ・周辺整備工事測量委託業務 ・周辺整備工事実施設計委託業務 ・周辺整備工事施工監理委託業務	目標 (委託工事3件)	()	()	()
	実績	委託工事4件				
	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明	当初は、周辺整備工事と工事設計委託、監理委託の計3件予定していたが、整備委員会で考古学等の有識者よりウローカー周辺地に石畳参道等が埋没している可能性が高いと判断され、さらに調査すべきとの意見を踏まえ、ウローカー北東側遺構検出委託業務1件を追加して計4件実施した。なお、周辺整備工事測量委託業務は、工事設計委託に含めて実施している。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
		世界遺産「斎場御嶽」周辺整備完了	目標 ()	(参道・戦争遺跡整備)	()	()
		実績		周辺整備事業のうち樹木伐採・法面保護工完了		
		目標	()	()	()	()
		実績				
進捗状況説明	平成24年度に土地公有化、平成25年度に遺構検出や測量、ボーリング調査、平成26年度に周辺整備工事等を実施した。平成26年度で事業完了する予定であったが、考古学等の有識者による整備委員会でウローカー周辺地に石畳参道等の遺構が埋没している可能性が高いとの判断から、さらに調査する必要があるとの意見を踏まえ、ウローカー北東側の遺構検出委託業務を実施し、工事については樹木伐採や法面保護工等にとどめた。平成27年度は、平成26年度の調査結果に基づき、周辺整備委員会にて検討のうえ、整備工事を実施し、事業を完了する予定である。					

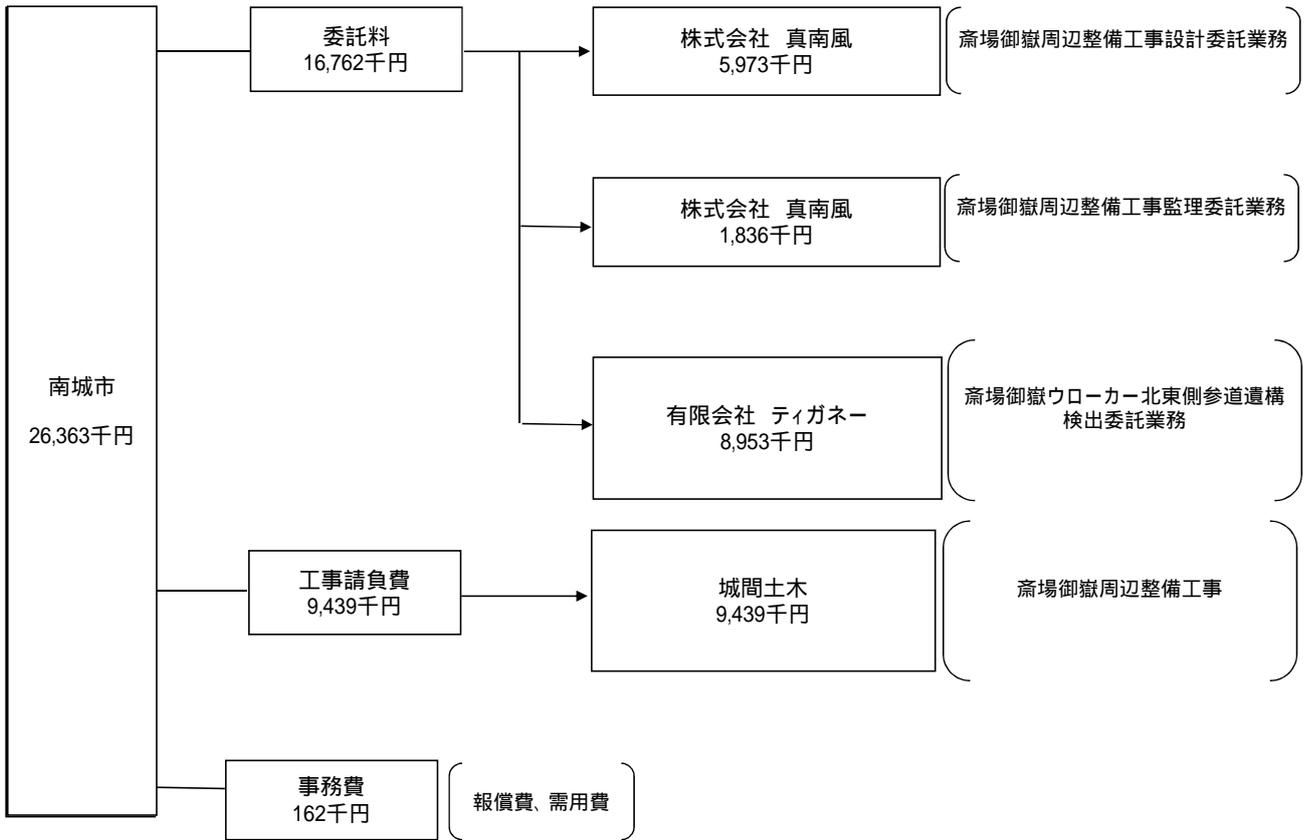
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>「斎場御嶽」保存管理計画書において隣接地に所在するウローカー等の拝所や参道等関連する文化遺産についても、より広域的に整備する必要性が課題としてあげられていたが、指定地域外ということもあり、公有地化されおらず、整備が行われていないかった。斎場御嶽が世界遺産に登録されたことで、多くの観光客が訪れるようになった昨今、訪れる人々により斎場御嶽を理解してもらうため、本地域を公有化して整備し、多くの観光客等への活用を図るために本事業を実施することとなった。</p> <p>事業の実施に伴って、ウローカーへ登る階段や参道の一部が旧日本軍の砲台構築によって壊されていることが、平成26年度の遺構検出調査によって判明したことから、参道の整備方法が大きな課題となっている。また、他所の参道遺構についても土砂流出等により保存状態が悪く、文化財の遺構としての復元が難しい状況である。</p>	<p>平成27年度も考古学、歴史学などの有識者で構成する斎場御嶽周辺整備委員会を設置して、平成26年度に実施した遺構検出業務の成果に基づき、遺構の復元ではなく修復等による整備を検討し、事業が計画どおり執行できるように努める。</p>

今後の取り組み方針

今回整備できなかった石畳参道や旧日本軍砲台跡等の戦争遺跡については、平成26年度の調査成果に基づき、斎場御嶽周辺整備委員会を開催し、整備内容を検討のうえ、平成27年度には遊歩道等の整備を行う予定である。また、本事業完了後はウローカーや石畳参道等の文化遺産、旧日本軍砲台跡等の戦争遺跡を国の重要文化財として指定できるよう文化庁や県と協議を進めていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
26,363	26,363	21,090	5,273	0



資金の流 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 入札により予算の執行残が発生したが、事業内容に対しては適正な規模であったと考えている。 費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費用・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南城市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 -	なんじょうハートプロジェクト推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ	
担当部課名	企画部 まちづくり推進課	事業実施(予定)年度	平成24～26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開 - 1 - (1)	
事業内容	地域資源を生かした南城市のイメージアップを図るため、南城市の地形である「ハート」を一体的に捉えたまちづくり・市キャラクター「なんじい」を活用したグッズ等による観光PR等を実施する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	10,000	12,700	14,000		
		(b)予算現額	10,000	12,700	14,000		
		(c)増減額(b-a)	0	0	0		
		(d)繰越額	-	-	-		
	A.計(b+d)		10,000	12,700	14,000		
	B.執行済額		9,969	12,496	13,950		
	うち交付金充当額		7,975	9,996	11,160		
	次年度繰越額		-	-	-		
	執行率(%) (B/A)		99.7%	98.4%	99.6%		
予算の状況の説明		不用額が50千円発生しているが、予定価格と予算額の差によるものである。当初計画していた事業内容はすべて実施しており、適正に執行されたと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	PRグッズ等の制作	目標	(制作及び配布)	(制作及び配布)	(3点)	()	
		実績	制作及び配布	制作及び配布	6点		
	PRイベントの開催	目標	(1回)	(1回)	(1回)		
		実績	1回	1回	2回		
ラッピングカーの活用による市内外へのPR活動	目標	(-)	(購入・実施)	(10回)			
	実績	-	購入・実施	212回			
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> PRグッズ等の制作及び配布を実施した。 ツーリズムEXPOジャパンへなんじい出演、ブース出展を行った。 平成26年12月26日に神奈川県「ラゾーナ川崎」のイベント会場にて「なんじいのあしびな」を題し、PRイベントを開催した。 平成27年2月14日に「ハートのまちで過ごすハッピーバレンタイン」を知念岬公演にてイベント開催した。 市内外へのなんじいの出演及び、その他市内外へ赴く際、積極的にラッピングカーの活用を行った。 観光協会や市内カフェ等との連携を強化したことで、目標を上回った。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	PRグッズ等の制作(3点)	目標	()	(-)	(3点)	(3点)	()
		実績		-	8点	6点	
	PRイベントへの誘客(2,000人)	目標		20,000人	3000人	2,000人以上	
		実績		20,000人	19,500人	延 5,000人	
	ラッピングカーでの出勤回数(10回)	目標		-	10回	10回以上	
実績			-	76回	212回		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 市民や市内事業者など、市内におけるブランド化の更なる浸透を図るため、市内でイベント開催を行った。 なんじいの出演、ブースの出店を行った「世界最大級 旅の祭典 ツーリズムEXPOジャパン」では、157,859人が来場し、南城市ブースへ約80,000人が立ち寄った。 PRイベントを実施したラゾーナ川崎には、施設来場者120,000人のうち、約10,000人がイベントに立ち寄った。 市内イベント「HAPPYハートバレンタイン」では、約5,000人が来場した。 来場者に向け、PRグッズを約4,600点配布した。 スカイマーク機内誌に3回南城市特集を連載し、ハートのまち南城市のPRを行った。 ハートのまちを巡る「ほろほろマップ」を作成し、レンタカー利用者へ1000冊配布した。 市内外へのなんじいの出演及び、その他市内外へ赴く際、積極的にラッピングカーを活用したことにより、道行く多くの方になんじいやハートのまちをPRすることが出来た。 						

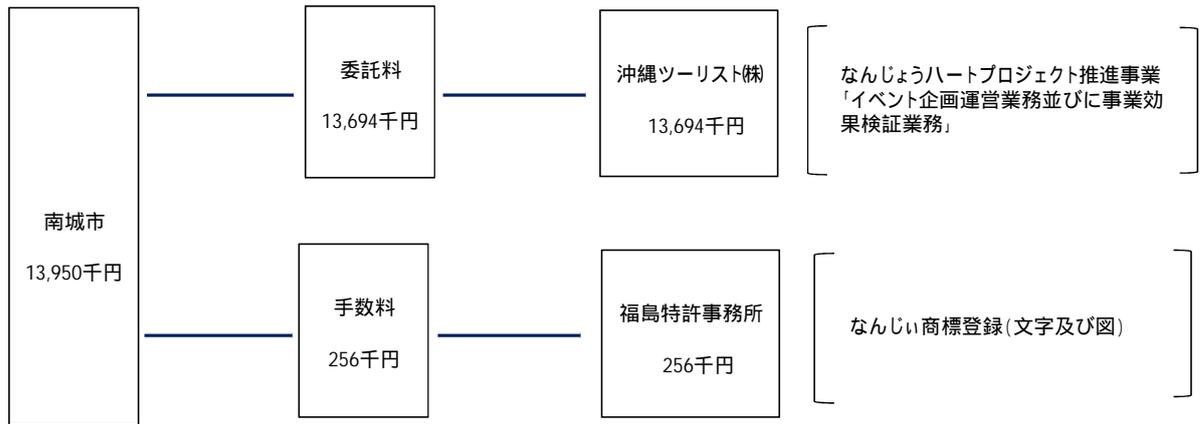
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>南城市の観光振興や地域活性化を図るために、「知ってもらう」ことが来訪の第1歩であることから、本年度は特に、県外での周知を念頭に事業を推進した。</p> <p>本事業により「ハートのまち南城」をイベント来場者へは認知させることができたことから、県内外において一定の成果を上げたとは言えるが、このような情報発信は「知る」きっかけとはなるものの、即南城市への誘客に繋がりにくい。</p>	<p>今後も継続して県外へ向けたPRを行うために、市・観光協会・商会等と連携し、なんじい及びハートのまちの認知度を向上させ、また魅力を発信し続け、南城市に訪問・滞在してもらえる事業を企画・計画する必要がある。</p>

今後の取り組み方針

県内では、「なんじい」を通して、南城市の知名度がかなり向上したと考えられる。また、県外向けのPRも行い、本事業の当初の目的を概ね達成したと考えられる。今後は、なんじい及びハートのロゴを南城市ガイドブックや観光ホームページ等に使用し、県内外へも「ハートのまち南城市」の発信のツールとしてPRを継続し、観光振興を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
13,950	13,950	11,160	2,790	0



資金の流 れ、費 目、 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
			支出先の選定方法は妥当か。	<p>委託については、随意契約であるが委託事業者は公募型プロポーザル方式で募集し、5社の中から企画書・プレゼンテーションにて選定しており、妥当であったと考えられる。</p> <p>不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。</p> <p>費目・使途においては、完了検査時に細かく精査しており、目的外使用は無く適正であった。</p>
			予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	南城市
------	-----

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1 -	スポーツツーリズム推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア
担当部課名	教育部 教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24～30年度	国際的な沖縄観光ブランドの確立
			沖縄振興基本方針該当箇所	- 1 - (1)

事業内容
本市陸上競技場はスポーツキャンプ等が数多く開催されており、観光客等の誘客促進及び青少年の健全育成を図るため、天然芝の良質な状態を保持を図り、芝生管理を図るための人材を育成する。

実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	15,399	27,483	7,004	
		(b)予算現額	9,959	24,734	7,004	
		(c)増減額(b-a)	5,440	2,749	0	
		(d)繰越額	-	-	-	
		A.計(b+d)	9,959	24,734	7,004	
	B.執行済額		9,345	23,970	6,903	
	うち交付金充当額		7,476	19,175	5,522	
	次年度繰越額		-	-	-	
	執行率(%) (B/A)		93.8%	96.9%	98.6%	
	予算の状況の説明		事業計画の内容について予算執行するにあたり天然芝の良質な状態を保持し、芝生管理を図るための人材を育成するため、活動目標、成果目標の達成状況を踏まえて適正であったと考えている。			

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		25年度	26年度	27年度	28年度
芝生管理人に精通した人材の育成	目標	(1)	(1)		()
	実績	1人	1人		
良質な状態での芝生の維持管理	目標	()	(維持管理)		()
	実績		委託で実施		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して芝生の管理人を雇用した事で芝の修復作業に取り組むことができた。 ・良質な芝生を保持しキャンプ誘致等の環境を整えることができた。 ・サッカーキャンプの受入と、なでしこリーグ公式戦として初の沖縄開催の会場として受け入れることができた。 				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
			25年度	26年度	27年度	28年度
芝生管理人の雇用(1人)	目標	()	(1名)	(1名)	()	()
	実績		1名	1名		
サッカーキャンプ等の受け入れ(平成25年度受入チーム数 3チーム)	目標	()	()	(キャンプ受入)	()	()
	実績			1チーム		
平成26年7月なでしこリーグ公式戦開催予定	目標	()	()	(1試合)	()	()
	実績			1試合		
進捗状況説明	目標	()	()	()	()	()
	実績					
芝生管理人を継続して雇用し芝の修復作業に関する技術習得と競技場の使用頻度に合わせた芝生の管理をすることができたことで、サッカーキャンプ(1チーム)を受け入れることができた。また、なでしこリーグ公式戦開催の会場として提供することができ2,300人の集客をすることができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本市陸上競技場はスポーツキャンプ等の受入を行い、観光客等の誘客促進及びスポーツを通しての青少年健全育成を図るため、天然芝の良質な状態を保持すること及び、芝生管理人の育成により施設の環境を改善に取り組んだ。</p> <p>・競技場の使用頻度が増えた事で、芝生の修復作業、散水、肥料等に係る経費がかかり、養生期間を含めた競技場の使用計画を検証する必要がある。</p>	<p>・施設の使用頻度に合わせた効率のよい芝生の修復作業計画を検証する必要がある。</p> <p>・主要な大会やサッカー・キャンプ受入に合わせて芝生を養生する必要がある。</p> <p>・習得した技術・知識については、継ぎの人材育成に繋げる必要がある。</p> <p>・芝生の管理を強化しキャンプ誘致に努め継続した環境整備を図る。</p> <p>・散水に関する経費節減策として、雨水タンクの設置が必要である。</p>

今後の取り組み方針

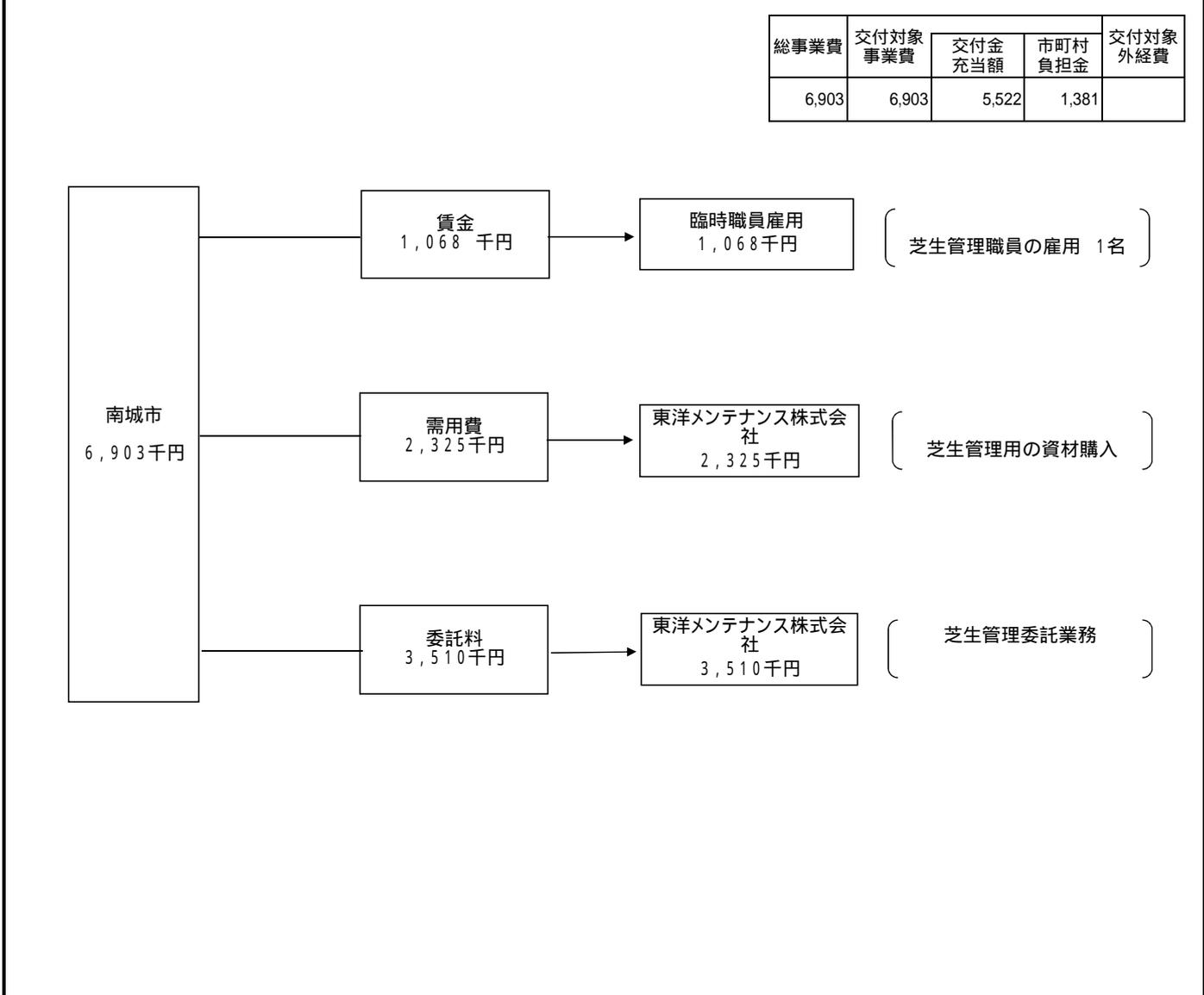
・今後も良質な芝環境を維持するために人材育成を目的とした管理人の雇用を継続し、これによって習得した技術と知識を活かすことで修復作業の効率化を図る。

・キャンプ誘致により市内への選手の宿泊やそれに伴う観光客誘客の促進による市内周遊型観光への取り組みを図る。

・青少年健全育成事業の一環としてサッカー教室等のプロ選手との交流事業への取り組み。

・新たに散水等に関する水道代金の節減のため、雨水タンクの設置も含めた水源の確保について取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



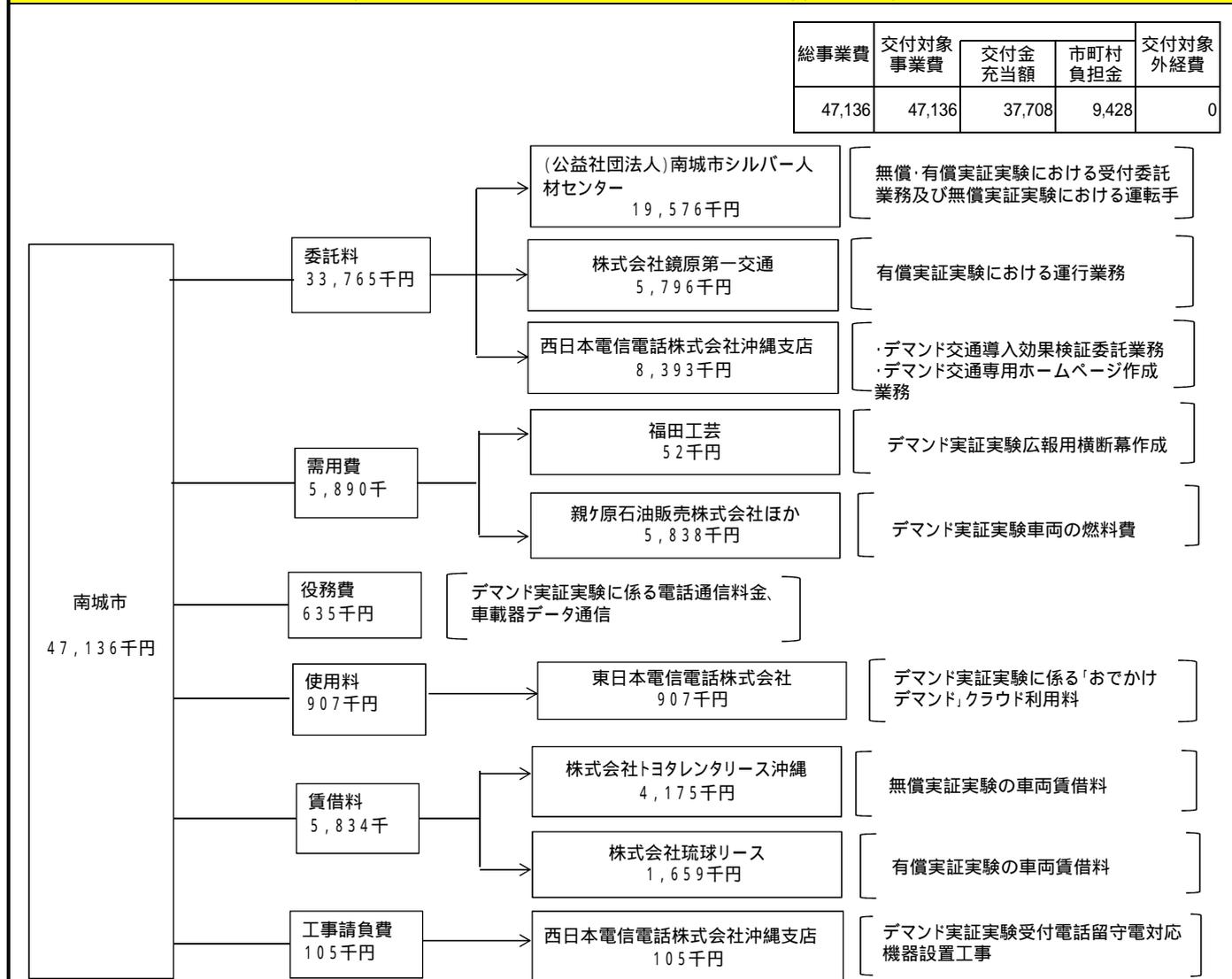
資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・芝生管理の資材購入と委託業務については、陸上競技場の使用状況と芝生の状態を把握している業者と随意契約を交わすことで限られた予算を最大限に活用できたと考えている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・使途において、賃金については出勤簿で管理し委託費については完了検査時に細かく精査しており、目的外使用は無く適正であった。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南城市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 - 観光交流サイン整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部課名	土木建築部 都市建設課 教育部 文化課 企画部 観光商工課		事業実施(予定)年度	平成25～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 - 1 - (1)
事業内容	来訪者にとってわかりやすい誘導案内や周辺案内、解説板、名称板等のサインを整備することにより、スムーズな案内誘導を進めるとともに都市景観の向上や、歴史文化遺産の顕在化と魅力の充実、市民と来訪者との交流促進、観光の振興を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	15,800	45,984			
		(b)予算現額	15,800	45,984			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		15,800	45,984			
	B.執行済額		15,274	36,827			
	うち交付金充当額		12,218	29,461			
	次年度繰越額		-	-			
	執行率(%) (B/A)		96.7%	80.1%			
予算の状況の説明		9,157千円の不用額が発生しているが、工事費の入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はほぼ実施した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	・道路愛称板の設置工事	目標	()	(20箇所)	()	()	
		実績		11箇所			
	・サイン設置工事	目標	()	(8行政区)	()	()	
		実績		6行政区			
・観光関連施設への誘導案内版の整備	目標	(誘導案内版整備)	(15箇所)	()	()		
	実績	誘導案内版整備完了	17箇所				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・(都市建設課)平成25年度に決定した、愛称設定路線(10路線)および道路愛称に基づき、平成26年度に5路線について道路愛称板を設置した。 ・活動目標数と実施数の差については、平成25年度の計画において1路線につき1本の設置を計画し、予算措置を行っていたが、平成26年度に1路線2本以上(起点・終点および経過地の交差点等)の設置に変更したため、予算の制約上11本の設置となった。 ・(文化課)当初、8行政区でサインの設置を予定していたが、設計書積算の段階で予算を大幅に上回った為、6行政区で設計書を作成し、入札、工事を行った。 ・(観光商工課)当初予定していた観光関連施設への誘導案内版等は、設置場所及びレイアウトの検討の結果、2枚追加となった。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	・道路愛称板の設置工事完了 20箇所	目標	()	()	(20箇所)	()	()
		実績			11箇所		
	・サイン設置完了 8ヶ所	目標	()	()	(8行政区)	()	()
		実績			6行政区		
	・観光誘導案内版の整備完了:15ヶ所	目標	()	(20箇所)	(15箇所)	()	()
実績			22箇所	17箇所			
進捗状況説明	来訪者にとってわかりやすいサイン整備として(道路愛称板、地域案内板、解説板、標柱、誘導板、観光誘導板)を設置した事により、来訪者のスムーズな誘導が行われ、都市景観の向上や、歴史文化遺産の顕在化と魅力を伝えることができるようになった。						

市町村名		南城市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 -	デマンド交通実証実験事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部署名	企画部 政策調整課	事業実施(予定)年度	平成24～27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	デマンド交通の運行実施計画案(H24策定)に沿って、試験運行(H25～H27年度)を実施しながら、必要車両台数、運行時間の分析と既存交通機関との連携等について検討し、南城市型の交通システムの確立を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	6,915	51,258	55,262		
		(b)予算現額	6,915	29,127	55,262		
		(c)増減額(b-a)	0	22,131	0		
		(d)繰越額	-	-	-		
		A.計(b+d)	6,915	29,127	55,262		
	B.執行済額		6,825	26,925	47,136		
	うち交付金充当額		5,460	21,539	37,708		
	次年度繰越額		-	-	-		
	執行率(%) (B/A)		98.7%	92.4%	85.3%		
予算の状況の説明		当初は、車両5台による無償実証のみを実施予定であったが、本格運行を見据えてのデータ取得を目的に、年度途中の12月より有償実証に切替え実験を実施し、車両を3台へ減車(有料による利用者減を見込み)を行った事で委託料、燃料代、車両賃借料が減額となった。また有償による料金収入を運行委託料から除いた事などにより、8,126千円の不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度		
	地域公共交通会議の開催	目標	(3回)	(3回)	()	()	
		実績	3回	3回			
	実証実験実施	目標	()	(実証実験)	()	()	
実績			無償・有償により実施				
達成状況説明	平成26年度デマンド交通運行実施計画(案)に基づき、平成25年度に引き続き、4月より無償での実証実験(平成25年12月9日から平成26年12月8日)を1年間実施し平成25年度の冬期に併せ1年間を通してデータを取得した。また12月より有償での実証実験を行い冬期のデータを取得した。 地域公共交通会議(交通事業者をはじめ関係団体からなる組織)を目標どおり開催した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	地域公共交通会議の開催:3回	目標	()	(3回)	(3回)	()	()
		実績		3回	3回		
	乗車人数(1日):150人	目標	()	()	(150人)	()	()
		実績			267人		
	有償実証事業の委託先の選定	目標	()	()	(有償実証委託)	()	()
実績				有償実証委託			
進捗状況説明	地域公共交通会議(交通事業者をはじめ関係団体からなる組織)にて実証実験の内容を審議した。特に有償実証時の料金や運行形態等について審議し、運輸局への事業申請内容を調える事ができた。 デマンドバスの利用者は増加傾向にあり、無償実証時の1日平均乗車数は92.2人で、青年フェスタが開催された9月19日に最多の267人となった。また(特に観光客向け)周知拡大の為にデマンド交通専用のHPを作成した。 有償実証実施に際し、道路運送法に基づく一般乗合旅客自動車運送事業を取得できる運行事業者を公募型プロポーザルにて選定し、事業許可を取得、平成26年12月より約4ヶ月間の実証を実施した。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	現状の市内公共交通体系では、観光客・市民の移動が困難であることから、交通体系を改善する為に「デマンド交通システム」を活用した実証実験を行った。	観光客への広報については、市内の観光施設、市観光協会、市内宿泊施設等への周知を引き続き実施する他、沖縄コンベンションビューロー及び(ビューロー)県外事務所へのチラシ設置や旅行会社等への周知を図る。また、デマンド交通専用HPへ様々な観光関連企業等のHPからリンク出来るよう連携を検討する。 市民へは、引き続き市広報等で周知し、各種イベントとの連携や体験乗車会等を開催し利用者拡大を図る。 また、市外への移動や市外からの移動について、関係交通事業者と連携し、乗り継ぎ割引等を検討し更なる利用拡大を図る。
	実験は、無償及び有償により実施したが、利用者が無償時の1日平均92.2人から有償時には53人と約半減(43%減)したことから、観光客・市民への更なる周知が必要。 利用者アンケート(観光客)では、市への再来訪意思も示されていることから、南城市来訪前にデマンド交通について認知させ、更なる観光振興に繋げる必要がある。 有償への移行により利用者はほぼ半減したが、市外への移動の為にアクセス拠点となるバス停までの利用は14%減に留まっており、市外への移動ニーズが高いことから、関係交通事業者等との更なる連携が必要。	
今後の取り組み方針		
平成25年12月9日から平成26年12月8日まで実施した無償実証では、1年間を通したデータ(季節による変動等の確認)を取得する事ができた。平成27年度においては、平成26年12月より実施している有償実証を継続して行い、年間を通したデータを取得し、本格運行に向けた運行時間帯、車両台数、最適な料金形態等を把握する。 また、実証実験終了後は、実証結果を踏まえた本格運行の実施を目指し、南城市にあった持続可能な公共交通とするために、関係交通事業者との連携(市外へのアクセスとして乗り継ぎ場を整備する等)及び市内民間事業者との連携(商業施設や病院からの運賃補助や買い物割引等)を検討する。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目、使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	検証等委託事業者は、公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を助案した上で選定。また、実証実験における運転手及び電話受付委託業務については、地方自治法施行令第167条の2第1項第3号によりシルバー人材センターへの随意契約であり、妥当であったと考えている。 無償から有償へ切替えて実証を行ったため車両台数が減となり運行委託料、車両賃借料が減額となったが、予定していた内容はすべて実施しており適正な予算規模であった。 車両賃借については、(条件付)競争入札により選定しており、妥当であったと考えている。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南城市						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1 - 観光振興計画(前期・中期)評価・検証及びアクションプラン策定業務		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-イ			
	市場特性に対応した誘客活動の展開							
担当部課名	企画部 観光商工課		事業実施(予定)年度	平成26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	- 1 - (1)	
事業内容	南城市観光振興計画(前期・中期)の評価・検証を行い、南城市観光振興計画における実施済みの取組みに対する評価・検証、実施課題の整理、観光客動態調査等を実施し、南城市として目指す観光の方向性を確実に実行していくための方策を位置づける。							
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	10,314					
		(b)予算現額	10,314					
		(c)増減額(b-a)	0					
		(d)繰越額	-					
		A.計(b+d)	10,314					
	B.執行済額		7,290					
	うち交付金充当額		5,832					
	次年度繰越額		0					
	執行率(%) (B/A)		70.7%					
予算の状況の説明		当初予定していた観光振興委員会の取止め及びワークショップ、庁内委員会を3回から2回に変更した為、精算による不用額3,024千円が生じた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度		
	・市内観光事業者の状況把握 ・観光客の動向把握 ・広域での状況把握 ・社会動向の把握	目標	アンケート(ワークショップの)実施	()	()	()	()	
		実績	アンケートワークショップの実施					
			目標	()	()	()	()	
			実績					
達成状況説明	本業務は観光振興計画の見直しではなく、本来の計画に沿って評価と検証を行うものである。よって、アンケート及びワークショップの意見を反映させることで十分な成果が得られると判断し、観光振興委員会については開催を取りやめた。また、ワークショップ及び庁内検討委員会においては、当初3回を予定していたが、2回の開催で十分な情報を得ることができた。「南城市観光振興計画」に基づくこれまでの取り組みについてアンケート調査、ワークショップ等を開催し分析と評価を行い、検証することで年次のかつ段階的に組み込んだアクションプランを策定することができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
	・南城市観光振興計画の評価・検証 ・アクションプラン(実施計画)の策定	目標	()	評価・検証(アクション)	()	()	()	()
		実績		評価・検証(アクションプラン)策定				
			目標	()	()	()	()	()
			実績					
	進捗状況説明	アンケート調査の分析により外部への情報発信の強化、施設への誘導案内の表示の充実、観光施設の駐車場の整備と交通の利便性の充実を含め、多種多様な観光資源は点在するが周遊できる環境にないなど意見があった。それらをクリアするため策定したアクションプランにおいて今後の事業を実施する。						

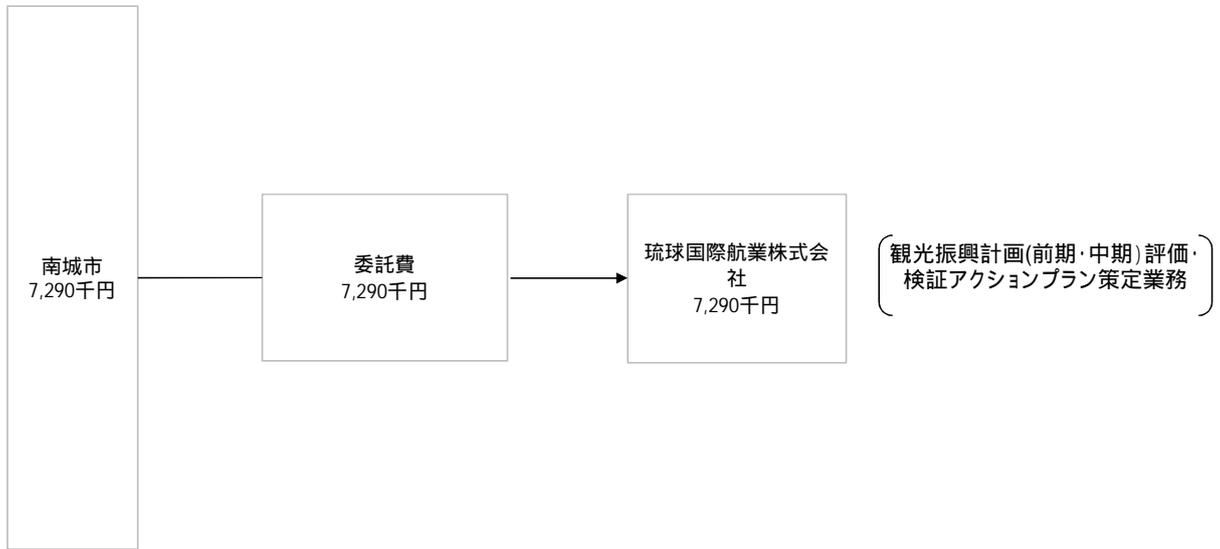
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	10年計画である本市の観光振興計画は平成19年度の策定より既に6年経過している。これまでの計画の進行の評価を行うと同時に、今後事業を展開していく上で必要な問題点の洗い出しと観光振興計画に沿った実施計画の検討が必要である為、アクションプランの策定を行った。アンケート調査等により、実施計画を進めるうえで、いくつかの課題が抽出された。	アンケート調査等から得た課題解決の為、ワークショップを行い課題解決に向けた意見を取りまとめ、実施計画(アクションプラン)に反映させた。

今後の取り組み方針

評価・検証結果及びアクションプランに基づき平成29年度までの事業計画に基づく観光の推進を図るため以下の事業の取組を実施する。 体験プログラムの考案 周辺史跡の駐車場整備 歩行者(観光客)の歩道整備・安全対策

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
7,290	7,290	5,832	1,458	



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託については随意契約であるが、事業者はプロポーザルで選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の約30%であり、一部改善を要する。 ○費目・用途については、精算及び検査実施しており、必要なものに限定されていることを確認している。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南城市						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1 - 南城市クロスメディア情報発信事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ウ			
	担当部課名	企画部 観光商工課		事業実施(予定)年度	平成26年度	観光客の受入体制の整備		
				沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(1)			
事業内容		南城市の観光産業振興に資するため、本市の有する「観光コンテンツ」を効果的に発信するための手段を構築し、南城市観光に関する情報を国内外へ配信することにより、南城市の魅力を広くとともに、周遊型観光の推進、歴史・文化、体験滞在、癒しをテーマとした観光振興を図る。						
実施方法		直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		(a)当初予算額		30,000				
		(b)予算現額		22,318				
		(c)増減額(b-a)		7,682				
		(d)繰越額		-				
		A.計(b+d)		22,318				
		B.執行済額		22,317				
		うち交付金充当額		17,853				
		次年度繰越額						
		執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。増減額7,682千円については、複数者からの見積比較に伴う設計価格の減額による補正減である。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況					
	観光ポータルサイトの構築(PC、スマホ)及び多言語化対応(英語・中国語・韓国語)	目標	26年度	27年度	28年度	29年度		
		実績						
		目標						
		実績						
	達成状況説明	観光ポータルサイトの構築(PC、スマホ)及び多言語化対応(英語・中国語・韓国語)について目標どおり実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
	・南城市観光情報の配信開始(事前・事中情報の発信) ・外国人観光客への情報の配信開始	目標	()	()	()	()	()	
		実績						
	目標	()	()	()	()	()		
	実績							
	進捗状況説明	観光ポータルサイトの構築(PC、スマホ)及び多言語化対応(英語・中国語・韓国語)について目標どおり実施し、平成27年3月末に、南城市の観光情報の配信及び外国人観光客への情報の配信を開始することが出来た。紙媒体・動画(WEB配信)・WEB・SNS等を活用し、周遊型観光に繋げる取組を行った。あわせて多言語配信による外国人観光客の誘客及び観光に必要な情報を提供し、利用者が質・量ともに満足できる仕組み(システム)の構築を行った。						

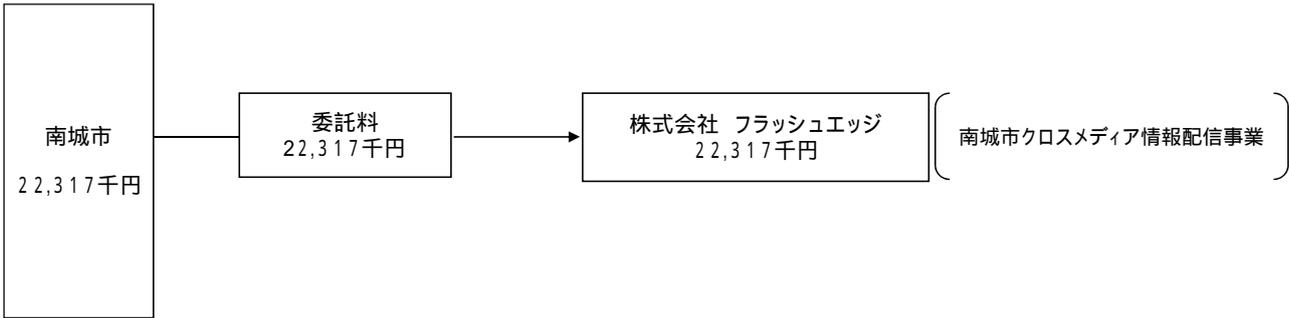
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・南城市は世界遺産「斎場御獄」、おきなわワールド等の観光施設があるが、“南城市”自体のイメージが乏しいため、目的地である主要観光施設へ行って帰るだけの通過型の観光となっている。 ・南城市でのより魅力的な過ごし方を提案するために、旅行を計画している観光客等へ事前情報として、旬な情報を発信する必要がある。 ・HPについては、アクセス分析など運用の管理を行い、より多くの人に閲覧してもらい取り組みの展開が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南城市の観光情報の事前配信を行い、南城市でのより魅力的な過ごし方を提案し、市での滞在時間を延ばし周辺事業者への周遊を図る。 ・閲覧数を向上させるため、HPの更新・店舗取材・企画などを行い、魅力的なHPの管理・運用を行う。

今後の取り組み方針

観光情報ポータルサイトの管理・運営を行う。特集ページ(企画・取材・制作)、モデルコースページ制作、店舗取材・更新、各種更新(イベント情報/フォトギャラリー)等を行い、南城市の旬な観光情報を発信していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
22,317	22,317	17,853	4,464	



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託については随意契約であるが、委託事業者は公募型プロポーザル方式で募集し、9社の中から企画書・プレゼンテーションにて選定しており、妥当であったと考えられる。予算規模については、当初計画していた事業内容はすべて実施しており適正な規模であった。費目・用途においては、完了検査時に細かく精査しており、目的外使用は無く適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

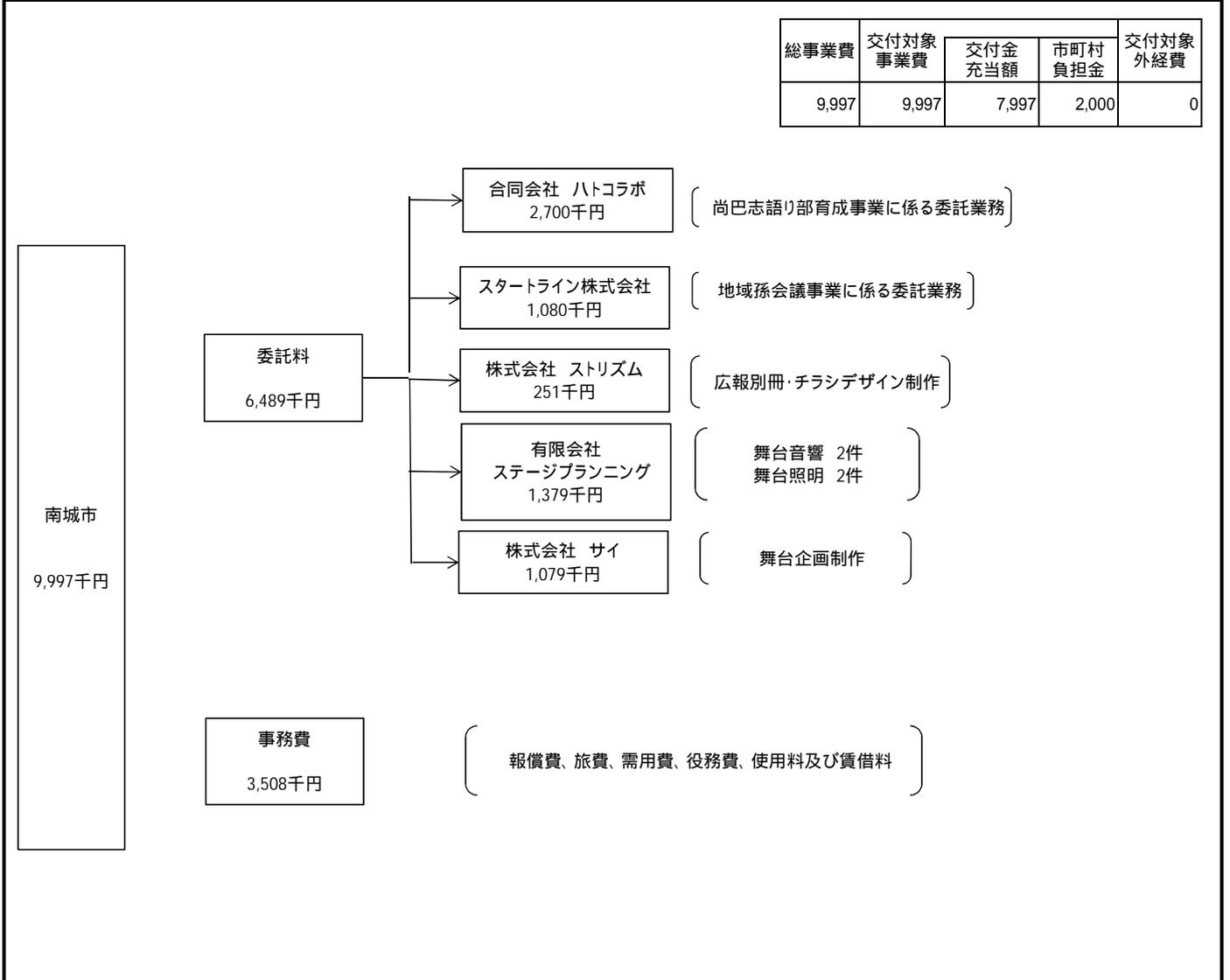
市町村名		南城市						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1 - 尚巴志活用マスタープラン実施事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ア			
	国際的な沖縄観光ブランドの確立							
担当部課名	教育部 文化課		事業実施(予定)年度	平成26～30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	- 1 - (1)	
事業内容	平成25年度で策定される予定の「尚巴志活用マスタープラン」を実施する事業である。平成26年度は尚巴志を普及していく事業、尚巴志スピリットを育成する事業、エコミュージアムの基礎を築く事業などを行う。							
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	10,000					
		(b)予算現額	10,000					
		(c)増減額(b-a)	0					
		(d)繰越額	-					
		A.計(b+d)	10,000					
	B.執行済額		9,997					
	うち交付金充当額		7,997					
	次年度繰越額		-					
	執行率(%) (B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施したほか、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度		
	1.「尚巴志」の普及・啓発・情報発信 「尚巴志のまちづくりコンサート&シンポジウム」 「紙芝居学校アウトリーチ」 「文化講演会」 2.地域興しの人材育成 「尚巴志の語り部育成事業」 3.エコミュージアムの創造 「グスク巡りコンサート」 「観光タイアップ事業」 「地域孫会議事業」 「琉歌募集事業」		目標	(3項目8事業)	()	()	()	
達成状況説明		実績	3項目9事業					
当初予定していた「尚巴志のまちづくりコンサート&シンポジウム」(尚巴志活用マスタープラン策定を受けてその意義やこれから南城市内において尚巴志並びマスタープランをいかに活用していくのかということテーマとしたシンポジウム並びに市民が参加したコンサート)、「紙芝居学校アウトリーチ(学校訪問)」(尚巴志という人物を知ってもらうため、尚巴志の生き方を紙芝居として制作し、市内全小学校を訪問して行った)、「文化講演会」(尚巴志という人物、時代背景をテーマとした文化公演を実施)、「尚巴志語り部育成事業」(尚巴志並びにその生きた時代について市内の文化遺産を確認し、そのストーリーについて独自の発想も踏まえて制作していった)、「グスク巡りコンサート」(国指定文化財が所在する4地域にて、より身近な文化遺産として地域に活用してもらうためグスクの中でコンサートを実施)、「観光タイアップ事業」(尚巴志ハーフマラソンにおける尚巴志によるオープニング・尚巴志による事業冊子の作成・舞台演劇を実施)、「地域孫会議事業」(地域に残る文化遺産等の古写真を通して、地域コミュニティの活性化等の事業を実施)、「琉歌募集事業」(南城市内に残る文化遺産をテーマとした琉歌を募集し、地域に残る文化遺産の掘り起し、より発信していくために実施)のほか、新規にエコミュージアムの創造における「サテライトミュージアム育成事業」(西原区からの提案を受け、「地域づくりのための歴史講座」と題して、一地域ではなく地域内のストーリーとしての歴史を学んでもらうための講座を実施)を実施した。								
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
	1.「尚巴志」の普及・啓発・情報発信 「尚巴志のまちづくりコンサート&シンポジウム」 ・目標客数:200名 「紙芝居学校アウトリーチ」 ・紙芝居の制作 ・市内9小学校のアウトリーチ 「文化講演会」 ・目標客数:100名 2.地域興しの人材育成 「尚巴志の語り部育成事業」 ・参加者10名 3.エコミュージアムの創造 「グスク巡りコンサート」 ・合計観客動員数:200名 「観光タイアップ事業」 ・目標客数:500名 「琉歌募集事業」 ・応募者数:150首		目標	()	(3項目8事業)	()	()	()
進捗状況説明		実績		3項目9事業				
当初予定していた「尚巴志のまちづくりコンサート&シンポジウム」、「紙芝居学校アウトリーチ」、「文化講演会」、「尚巴志語り部育成事業」、「グスク巡りコンサート」、「観光タイアップ事業」、「地域孫会議事業」、「琉歌募集事業」のほか、「サテライトミュージアム育成事業」を実施した。 尚巴志のまちづくりコンサート&シンポジウム(400名)、紙芝居学校アウトリーチ(紙芝居制作・市内9小学校へのアウトリーチ)、文化講演会(100名)、尚巴志語り部育成(延べ120名)、グスク巡りコンサート(480名)、観光タイアップ事業(4事業・600名)、琉歌募集(応募数118首・応募者が一部愛好者に留まったため)、地域孫会議(120名)、地域づくりのための歴史講座(30名)								

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>本事業は、あまり語られることのない琉球王国を築きあげた尚巴志という人物について、その実像並びにスピリットを知ってもらい、そのスピリットに見合った人材を育成するとともに、それを培ってきた南城市内に残る歴史・自然・文化遺産を活用していくことで、地域や南城市内を発信していくとする「尚巴志活用マスタープラン」の策定に基づいて、尚巴志という人物の普及、尚巴志スピリットの育成、エコミュージアムの基礎作りのために事業を実施した。そこで、市民の手による紙芝居を作成し、市内全小学校へのアウトリーチを実施したことなど、普及・発信・人材育成に対して一定の成果があげられたものの、初年度ということもあり、市内・県内を巻き込む形での事業成果を得られたとまではいえない。</p>	<p>26年度の実績を踏まえ、事業を継続して実施し、市内を含め、県内外へ事業内容の情報発信を積極的に実施する必要性から、これまでの新聞・コミュニティFM・ホームページに限らず、フェイスブックといったSNSなどネットを活用した広報活動を実施していく必要がある。</p> <p>また、事業の効率的な実施に向け、プロポーザルによる民間委託を行っていく必要がある。</p>

今後の取り組み方針

平成27年度は、人材育成事業である「尚巴志語り部育成事業」内に紙芝居アウトリーチ事業を組み入れ、尚巴志の普及とその事業に係わる人材の育成を行う。また、グスク巡りコンサートをプロポーザルによる委託事業として実施し、地域への文化遺産普及並びにまちづくりの契機となるよう、より効果的な事業プログラムを実施するとともに、SNS等のネットを活用した広報活動を積極的に実施していきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>委託については随意契約であるが、一部委託事業者は公募型プロポーザル方式により選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>不用額が事業費1%未満であり適正な規模であった。</p> <p>費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認又は検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

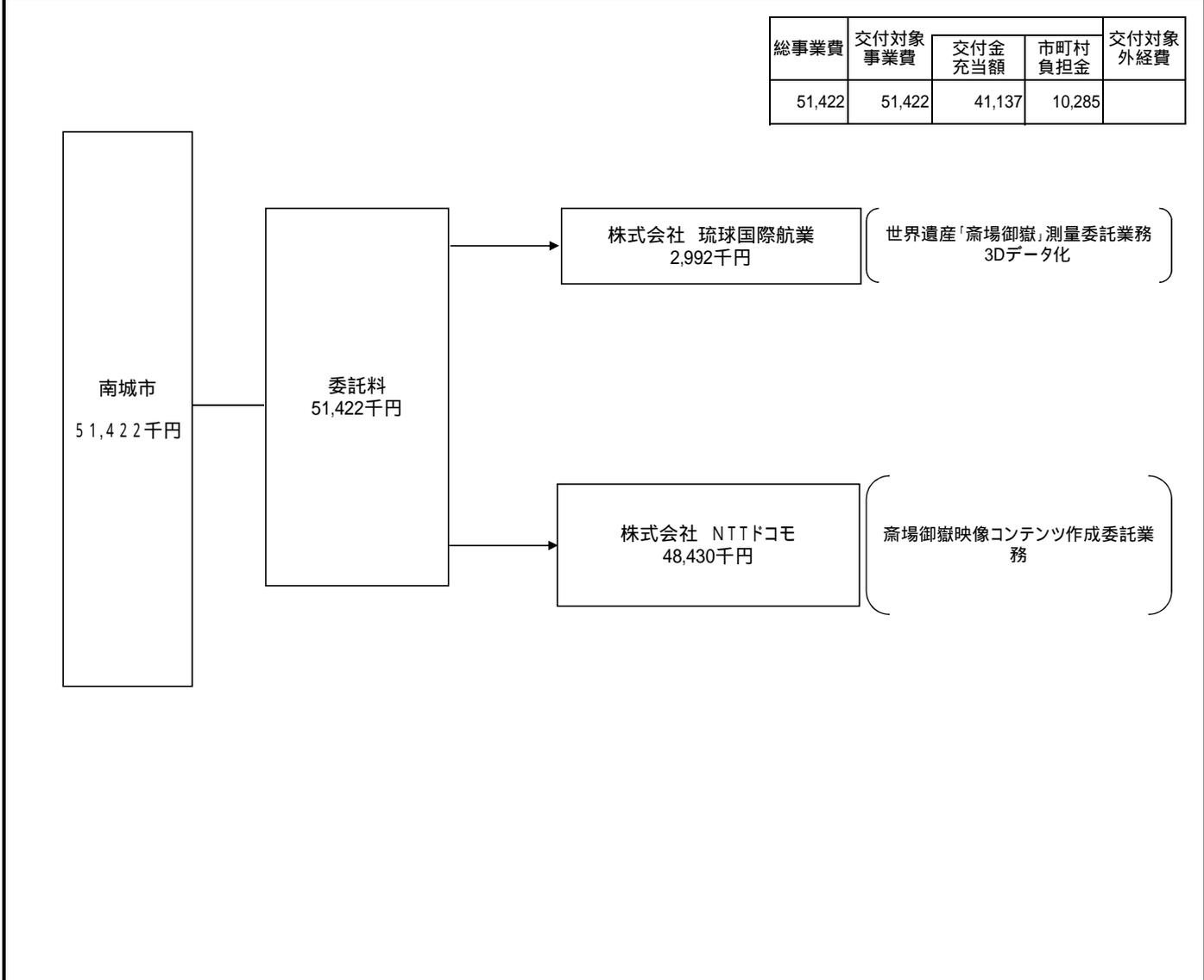
市町村名		南城市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 - 世界遺産「斎場御嶽」ガイドンス施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ウ		
	観光客の受入体制の整備						
担当部署名	企画部 観光商工課		事業実施(予定)年度	平成26～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(1)
事業内容	<p>世界遺産斎場御嶽を3Dデータとして整備し、既存施設「がんじゅう駅・南城」及び「緑の館セーファ」を活用し「斎場御嶽ガイドンス施設」として再整備する。 斎場御嶽の現状をデジタルデータ化することで、斎場御嶽へ入域出来ない観光客へのサービスの向上と災害時の復旧に寄与する。又、歴史的な背景をビジュアル的に演出することにより、斎場御嶽にまつわる伝説や信仰を、“ものがたる”ことによって、本市を起点とする県域観光の促進を図る。</p>						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	54,000				
		(b)予算現額	52,672				
		(c)増減額(b-a)	1,328				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	52,672				
	B.執行済額		51,422				
	うち交付金充当額		41,137				
	次年度繰越額		-				
	執行率(%) (B/A)		97.6%				
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。1,250円の不用額が生じたが、入札残及び実績精算したためである。また増減額1,328千円については、複数者からの見積比較に伴う設計価格の減額による補正減である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	調査・測量及び斎場御嶽の3Dデータ化及び映像の作成	目標	(委託2件)	()	()	()	
		実績	委託2件				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	斎場御嶽の調査・測量、3Dデータ化及び映像の作成を目的とした委託業務(2件)を目標どおり実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	斎場御嶽調査及び測量業務の完了・3Dデータ化	目標	()	(調査・測量、3Dデータ化)	()	()	()
		実績			調査・測量、3Dデータ化の完了		
	映像コンテンツの作成	目標	()	(映像コンテンツの作成)	()	()	()
		実績			映像コンテンツ作成		
	進捗状況説明	斎場御嶽全体を測量により実測した上で3Dデータとして整備し、その3Dデータを活用して斎場御嶽の伝説や信仰にまつわる映像の作成を目標どおり実施した。作成した映像コンテンツを活用し、高齢者や障がい等の理由により斎場御嶽へ入域出来ない観光客へのサービスの向上及び斎場御嶽の文化的価値への理解促進と遺産保護の意識向上をはかる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・観光客の飛躍的増加により、地域住民の祈りの場(聖地)である雰囲気損なわれ、また遺跡・遺構の損壊についても危惧されており、見学者への正しい情報発信、世界文化遺産・地域住民の祈りの場の保護のため、正しい見学の仕方をレクチャーするのが課題である。</p> <p>・齋場御嶽は世界遺産に登録されてからは知名度が一気に上がり、パワースポットブームも手伝って、観光客が飛躍的に増加したが、訪れた観光客へ齋場御嶽の歴史的な背景・意味など大切なことを伝えることが出来ていない。</p>	<p>齋場御嶽の歴史的な背景や見学の仕方・マナーなど、事前に知ってもらいたい情報を、HP等で積極的に情報発信を行う必要がある。</p>

今後の取り組み方針

既存施設「がんじゅう駅・南城」「緑の館セーファ」を活用し「齋場御嶽ガイダンス施設」として再整備する。
「ガイダンス施設」には、世界文化遺産に登録された齋場御嶽の現状を精緻にデジタルデータ化して映像表現することができるシアターを設置し、平成26年度に作成した映像コンテンツの上映を行い、高齢者や障がい等の理由により齋場御嶽へ入域出来ない観光客へのサービスの向上と、齋場御嶽の文化的価値への理解促進と遺産保護の意識向上をはかる。また事前情報としてHPやyoutube等で映像の配信を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 点検 評価、 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>委託については随意契約であるが、委託事業者は指名競争入札及び公募型プロポーザル方式で募集し、公募型プロポーザルでは5社の中から企画書・プレゼンテーションにて選定しており、妥当であったと考えられる。</p> <p>予算規模については、当初計画していた事業内容はすべて実施しており適正な規模であった。</p> <p>費目・使途においては、完了検査時に細かく精査しており、目的外使用は無く適正であった。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南城市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2 -	蔬菜花卉園芸施設整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-カ	
担当部課名	農林水産部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	亜熱帯・島しょ性に適合した農林水産業の基盤整備 - 1 - (6)	
事業内容	農産物の安定生産、農家所得の向上を推進するため、施設栽培を奨励し、ビニールハウス導入経費を助成する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	8,359	-	30,000	-	30,000
		(b)予算現額	8,359	-	30,000	-	30,000
		(c)増減額(b-a)	0	-	0	-	0
		(d)繰越額	-	8,359	-	18,732	-
		A.計(b+d)	8,359	8,359	30,000	18,732	30,000
	B.執行済額		0	8,359	11,268	17,156	18,927
	うち交付金充当額		0	6,687	9,014	13,725	15,141
	次年度繰越額		8,359	-	18,732	-	-
	執行率(%) (B/A)		0.0%	100.0%	37.6%	91.6%	63.1%
予算の状況の説明		申請27件のうち、施設状況や圃場の大きさ等の条件を満たし事業を導入できたのが17ヶ所のみであったことと、施設強化より費用のかからない防風壁の設置希望者数が多かったため、11,073千円の不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	既存の農業用施設強化、防風壁の設置を行い、台風等災害に強い農業を推進する。	目標	(24ヶ所)	(20ヶ所)	(20ヶ所)	()	
		実績	6ヶ所	27ヶ所	17ヶ所		
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	既存施設の強化7件、防風壁設置10件を実施。申請27件のうち、施設や圃場の大きさなどで条件を満たさず事業導入できなかった方が10件あったため、目標件数を達成できなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	既存の農業用施設等の整備(20ヶ所)	目標	()	(24ヶ所)	(20ヶ所)	(20ヶ所)	()
		実績		6ヶ所	27ヶ所	17ヶ所	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	目標件数20ヶ所に対し事業導入17ヶ所と目標を達成できなかったが、事業を導入した施設については、強風等の自然災害から施設を守るとともに、施設内の作物被害を軽減することが出来た。前年度と比較して、申請者数、事業実施者数ともに減少したことが目標値を下回った要因となっており、事業の周知不足が考えられる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本市は3方を海岸線に面しており、台風等自然災害による農作物の被害を受けやすい地域となっている。自然災害の影響を受けにくい施設栽培を奨励し、作物の安定供給と農家所得の向上を図るため、既存施設の強化及び防風壁設置費用の一部助成を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設整備の目標数値を達成できなかったのは、前年度と比較して、申請者数、事業実施者数ともに減少したことが要因となっており、本事業や、事業実施に関する条件の周知不足と考えられる。 圃場と施設のスペースが狭く、現在の仕様では防風壁を設置できないケースがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業の周知は市の広報誌で行っているが、広報に気づかず、申請期限を過ぎでの相談もあるため、市内各JAや公共施設へポスターを掲示するなど、幅広い周知を行う。また、JA等へ要望量の調査を行う際、事業導入の条件についても詳しく確認していただく。 防風壁が省スペースでの設置が可能か、仕様に関して再検討を行う。

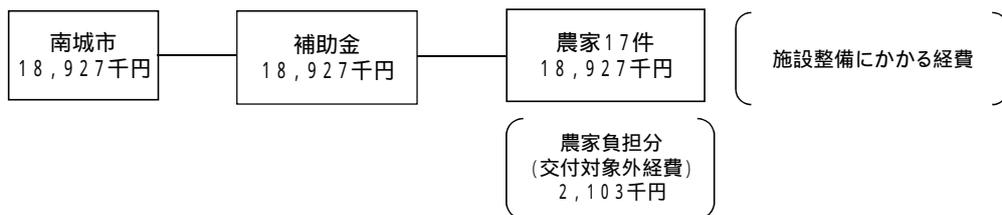
今後の取り組み方針

- 申請者数、事業実施者数を増やすため、幅広い事業周知の方法について再検討する。
- 農家の要望に応えるため、防風壁の仕様に関して再検討をする。
- 要望者数等について再調査を行い、予算規模や事業継続について検討する。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
21,030	18,927	15,141	3,786	2,103



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>市広報誌で周知を行って希望者を募り、施設状況等を勘案し選定を行ったため、妥当であったと考える。</p> <p>施設や圃場の状態により事業導入を行えない農家が多かったため、希望者調査の際、圃場についても確認を行い、次年度の予算規模を再検討する。</p> <p>施設整備にかかる経費の割合は受益者負担となっており、負担関係は妥当であったと考える。</p> <p>費目・用途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については、額の確定時において検査、確認しており、適正であった。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南城市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2 -	水溶性天然ガス利活用案策定事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-工	
担当部課名	農林水産部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25～26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化 - 1 - (6)	
事業内容	市内から採掘される水溶性天然ガスを利用した、一次産業分野への利活用案を策定する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	10,000	5,000			
		(b)予算現額	10,000	5,000			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	10,000	5,000			
	B.執行済額	4,983	4,995				
	うち交付金充当額	3,985	3,996				
	次年度繰越額	-	-				
	執行率(%) (B/A)	49.8%	99.9%				
予算の状況の説明	予算内での委託であり、当初計画していた事業内容はすべて実施した。また、活動目標及び成果目標の達成状況を鑑み適正であると判断する。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	南城市水溶性天然ガス利活用案の概要版を策定しており、さらに概要版に基づき詳細版の作成する。	目標	(一式)	()	()	()	
		実績	一式				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	H25年度に作成した水溶性天然ガス利活用案の概要版(水溶性天然ガスの資源価値、先進地事例、温泉水の利用計画、事業化へ向けた戦略等の検討)をもとに詳細版を作成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	南城市水溶性天然ガス利活用案の詳細版策定完了	目標	()	(一式)	()	()	()
		実績		一式			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	H25年度で作成した水溶性天然ガス利活用案の報告書をより具体的に、水溶性天然ガス利用の条件・評価、基本構成要素の検討、システムの検討、農業利用のモデル提案・事業実現方策、事業実現に向けての課題等を検証し、取りまとめ詳細版の報告書を作成。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>活用されていない貴重な地下資源を生かし、1次産業の振興及び新たな産業の創出並びに雇用の創出を図るべく利活用を検討しているが、水溶性天然ガスの利活用については、コスト面及び環境面でのリスクを考慮し、事業化へ向けて公共で行うか民間を活用するかの検討が必要である。</p> <p>また、試掘ヶ所からのかん水の排水については、河川への放流によって下流側の農家への影響等が懸念される。</p>	<p>かん水処理については、かん水の農地還元等を検討しつつ、排水処理のインフラ整備について沖縄県と連携を図っていく。</p> <p>また、沖縄県において県保有の3試掘井の今後の利活用の方策等の動向を踏まえながら課題に対する解決に取り組む。</p>

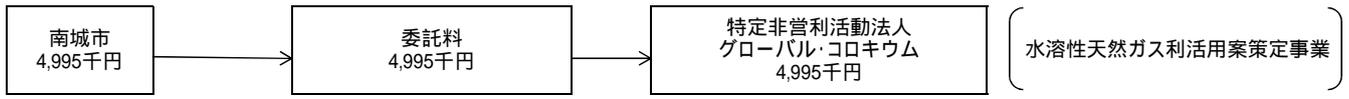
今後の取り組み方針

当事業における利活用家を基に効率的利活用に向け、さまざまな分野への展開について引き続き検討する。

また、県資源である水溶性天然ガスの開発方針の明確化、水溶性天然ガス資源利活用の促進に向けた基本方針の提示とその推進体制の確立、かん水の放流排水管敷設に関する調整を含むインフラ整備、かん水農地還元等のモデル事業の実証支援等について要望するとともに国・県・有識者等の意見等を聴取し更なる検討を重ね、課題解決ならびに事業の実現化を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,995	4,995	3,996	999	



資金の流れ、費目、使途の点検	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>委託事業者はH25年度において公募型プロポーザル方式により選定しており、他の事業者より当事業の内容を熟知していると判断し、本年度も同事業者との随意契約とした。事業熟度及び効率化並びに事業目標達成の観点から選定方法は妥当であったと考える。</p> <p>不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。</p> <p>費目、使途については契約金額以内であり、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南城市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2 -	つくり育てる漁業振興支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア	
担当部課名	農林水産部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備		
- 1 - (6)							
事業内容	獲る漁業からつくり育てる漁業への転換を目指し、水産物の漁獲高や生産高を増やすことに対し支援を行う。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	13,500				
		(b)予算現額	13,500				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	13,500				
	B.執行済額		13,500				
	うち交付金充当額		10,800				
	次年度繰越額		-				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	安定した漁獲及び生産高の向上を図るため、漁場や養殖場等の整備への補助。	目標	(養殖池の砂の入替)	()	()	()	
		実績	養殖池の砂の入替完了				
	漁獲高及び生産高の増加、販路拡大を目標にした計画書の作成。	目標	(生産高の増加目標計画の作成)	()	()	()	
		実績	生産高増加目標計画の完成				
達成状況説明	生産高向上を目指し、養殖池(1池)の車エビ寝床である池底に敷いている砂を入替えることで、養殖池環境の改善を図った。 車エビの生産歩留(生産高)50%を目標とし、生産歩留が向上したら縮小していた販路も拡大できると計画した。(南城市の車エビ養殖は、需要は高いが、生産歩留(生産高)が低いために販路先を縮小している状況である。)						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	漁場及び養殖場等の整備完了	目標	()	(整備完了)	()	()	()
		実績		整備完了			
	漁獲高及び生産高の増加、販路拡大を目標にした計画書完成。	目標	()	(計画書完成)	()	()	()
		実績		計画書完成			
	進捗状況説明	本市の車エビ養殖は、生産歩留(生産高)が低いため販路も縮小している状況である。 車エビの生産歩留50%を目標にした生産高計画を作成した後、養殖池(1池)の砂入替えを完了した。 改善した池の生産歩留50%(前年は38%)を目標にし、生産歩留が増えることで縮小していた販路も拡大できる計画で、平成26年8月に車エビの稚魚を池入れたが、平成26年10月に上陸した台風19号により養殖場が浸水し、養殖池内の車エビが流出する被害を受けたため、改善した池の歩留(成果)が算出できなかった。					

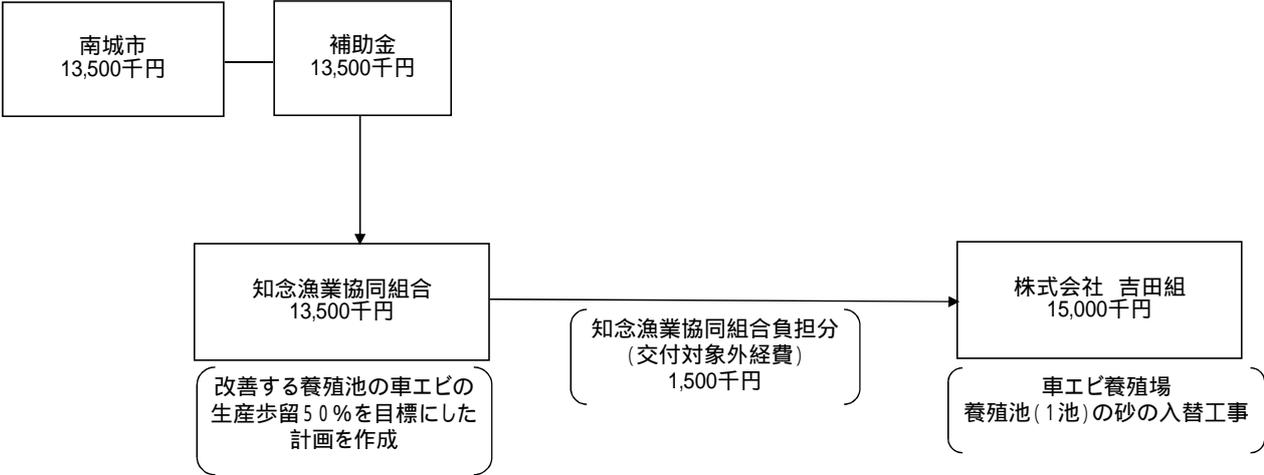
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>安定的な生産量および生産コストを見込めるよう「つくり育てる漁業」を推進するため、水産物養殖業への支援を行った。</p> <p>本市の車エビ養殖は、生産歩留(生産高)が低いいため販路も縮小している状況である。課題は生産歩留が低いということになるので、課題解決策として、車エビの生産歩留50%を目標とし、池の環境を改善することで、車エビの生産歩留の向上を図る計画であったが、平成26年度は台風被害により養殖池が浸水し、養殖していた車エビが出荷サイズになる前に流出してしまったため、池の環境を改善したことにより歩留が向上したかの検証ができなかった。</p>	<p>平成26年度に池入した車エビについては台風被害により効果の検証ができないため、次に池入れする車エビの生産高(歩留)の検証を行う。</p>

今後の取り組み方針

本市の車エビ養殖は生産歩留が低く、需要を満たす程の供給(生産高)が見込めないため、販路を縮小している状況である。課題は生産歩留が低いということになるので、課題解決策として、車エビの生産歩留50%を目標とし、池の環境を改善することで、車エビの生産歩留の向上を図る計画であったが、平成26年度に池入れした車エビは台風被害により車エビが流出する事故があったため、次に池入れする車エビの生産歩留を確認し、効果を検証する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
15,000	13,500	10,800	2,700	1,500



資金の流れ、費目、使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	補助先は市の水産業関連団体であるため、妥当であると考えられる。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模(事業計画)のとおり執行となったため、適正な規模だと考える。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	事業費の1割は受益者で負担しているため負担関係は妥当だと考える。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費目、使途については精算段階で実績報告書の審査を行っており、目的に即し、必要なものだと判断した。

市町村名	南城市						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2 -	優良繁殖牛リース支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア	
担当部署名	農林水産部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成26～30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 - 1 - (6)	
事業内容	和牛繁殖基盤の改良強化を図るため、農家に対して優良繁殖雌牛を貸し付けるものに対し支援を行う。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	20,000				
		(b)予算現額	20,000				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	20,000				
	B.執行済額	19,990					
	うち交付金充当額	15,992					
	次年度繰越額	-					
	執行率(%) (B/A)	100.0%					
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容を実施し、活動目標、成果目標の達成状況からも適正であるとする。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	優良母牛貸付頭数:50頭/年 優良自家保留牛の確保:1頭/5年(1頭あたり)	目標	(50頭)	()	()	()	
		実績	50頭				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	貸付頭数目標の50頭導入を達成した。 優良自家保留牛の確保については、成果確認に、期間を要するため、導入初年度では判断できないと考える。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	優良母牛50頭導入及び貸付開始(導入初年度のため下記指標は次年度以降から) ・分娩間隔の短縮 ・繁殖雌牛の若齢化 ・飼養頭数の増加等	目標	()	(50頭)	()	()	()
		実績		50頭			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	小規模経営で優良母牛を導入できなかった農家が、事業を実施することにより上限40万円の支援を受けるようになった。その結果、今まで県内市場でしか購入できなかった農家も、優良母牛を求めて県外市場へ購入に行くなど、繁殖基盤の強化と経営安定に向けて農家の意識も高まっている。今後は、分娩間隔の短縮、繁殖雌牛の若齢化、飼養頭数の増加に着実につなげていけるように、引き続き50頭の導入を継続し、結果の検証を行う。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>南城市は小規模経営の和牛繁殖農家が多く、また現在子牛の価格が高騰しているため母牛の更新が順調に進められない状況である。そのため、優良繁殖雌牛のリース支援を行い、貸付頭数50頭の導入に取り組んだ。導入することによって、分娩間隔の短縮、繁殖雌牛の若年化、飼養頭数の増加を図り、農家の生産性向上による経営安定させることで、市の畜産振興につながる。</p> <p>分娩間隔の短縮、繁殖雌牛の若年化、飼養頭数の増加などの成果を確認するには期間を要するため、導入初年度では確認ができない。</p> <p>よって、現状での課題は、特に見当たらない。</p>	<p>成果目標の達成に向け、JAなどの関係機関と協力して農家の管理を指導していく必要がある。</p> <p>また、農家や関係機関と連携を密にして、成果を検証できるデータの収集と蓄積に努めていく必要がある。</p>

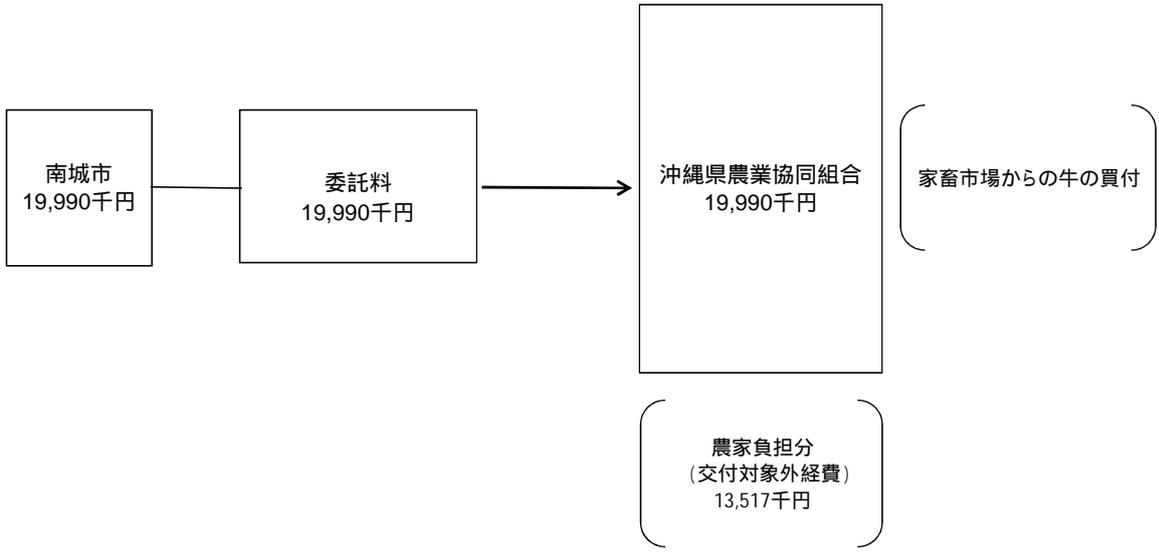
今後の取り組み方針

和牛繁殖基盤の改良、強化を図るため、今後も引き続き、優良繁殖雌牛のリース支援を行い、貸付頭数50頭の目標を達成できるように取り組む。

さらに、導入貸付牛が産しやすい環境基盤を整備するために、農家や関係機関との連携をとり、成果を検証できるデータの収集と蓄積に努めるとともに、必要に応じて、複合的な関連事業の検討も合わせて取り組んでいきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
33,507	19,990	15,992	3,998	13,517



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は、市内農家の経営実態を十分に把握し、生産技術の向上や経営指導等にも携わっているため妥当と考える。 不用額は事業費の1%未満であり適正な規模である。 受益者である農家は、総事業費の2割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であると考えられる。 事業費の確定時において検査、確認しており、使途は目的に即し、必要なものに限定されている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南城市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2 - 畜産悪臭対策普及推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(7)-ア		
	農林水産部 産業振興課		事業実施(予定)年度	平成26~27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備	
担当部課名						- 1 - (6)	
事業内容	畜産悪臭対策について実証実験を行う。その後、畜産農家に対し、悪臭対策に配慮した持続可能な経営技術の普及を行う。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	12,000				
		(b)予算現額	12,000				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	12,000				
	B.執行済額		10,789				
	うち交付金充当額		8,631				
	次年度繰越額		-				
	執行率(%) (B/A)		89.9%				
予算の状況の説明		プロポーザル方式により業者選定した結果、当初予算より少ない額で契約できたため、1,211千円の不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	実証実験	目標	(2件)	()	()	()	
		実績	2件				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	畜産悪臭対策に関する実証試験を2件実施した。 1件目のバイオパワースーパーは、乳酸菌を主体とした飼料添加物であり、畜舎に散布することで大腸菌の増殖を抑え、糞尿のニオイを抑える効果を期待できます。 2件目のステリパワーは、次亜塩素酸を空間に噴霧することにより、悪臭の原因物質と反応して酸化・塩素化し、悪臭のない物質に変化させる効果を期待できます。 以上、2件について、市内の豚舎で効果の検証と普及の検討を行うことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	実証実験の効果検証	目標	()	(2件)	()	()	()
		実績		2件			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	市内にある豚舎を選定し、12月から3月にかけて実証実験を行った。薬剤散布の前後で臭気がどのように変化するのか、測定を行い、周辺住民にアンケートを実施した。結果、一時的には消臭効果がみられたものの、豚舎内の設備や衛生状況、風向きなどの条件により、持続させることが難しく、ばらつきがあった。実証実験を様々な条件下で行い、効果的な使用方法を確立する必要がある。 また、消臭効果以外にも、殺菌効果も確認することができ、経済性を優先する小規模農家においても、普及が期待できる。今後、農家に対して説明会を行うなどして普及促進の取組を強化する。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>本市は畜産業が盛んであるが、畜産環境対策は長年の課題となっている。近年は市街化や観光振興が進んでおり、これまでより環境に配慮した畜産経営が必要となる。これまで様々な手法が用いられてきたが、コスト面や作業性の問題から広く普及までいたっているものは少ない。こうした状況を解決するために、効果的かつ持続可能な悪臭対策を検証する実証試験を実施した。</p> <p>・豚舎内の設備や衛生状況は、畜産農家各々で差があり、一様に普及することが難しい。 ・冬場の実証実験であったため、悪臭が本格化する夏場を実施しないと効果を期待できないとの声があった。 ・今回は豚舎のみの限定で実証実験であったため、他の種類の家畜にも効果があるのか、実証してほしいという指摘もあった。</p>	<p>畜産環境・衛生に関する情勢は厳しくなっているため、農家に対し、環境関係の法律や畜舎の管理についてわかりやすく普及していく必要がある。</p> <p>農家に普及・推進していくためにも、夏場や豚舎以外の実証実験を実施したり、また、関係農家を集めて、説明会や勉強会などを開催することで、今後の更なる普及・推進につなげられないか検討する必要がある。</p> <p>コスト面では、薬品を精製する機器の価格が、個人農家では負担が大きいため、負担を減らす工夫が必要となる。</p> <p>作業面では、農家にとって、経営で多忙な日々のなか、薬品を散布する作業をいかに簡略化できるか、検討する必要がある。</p>

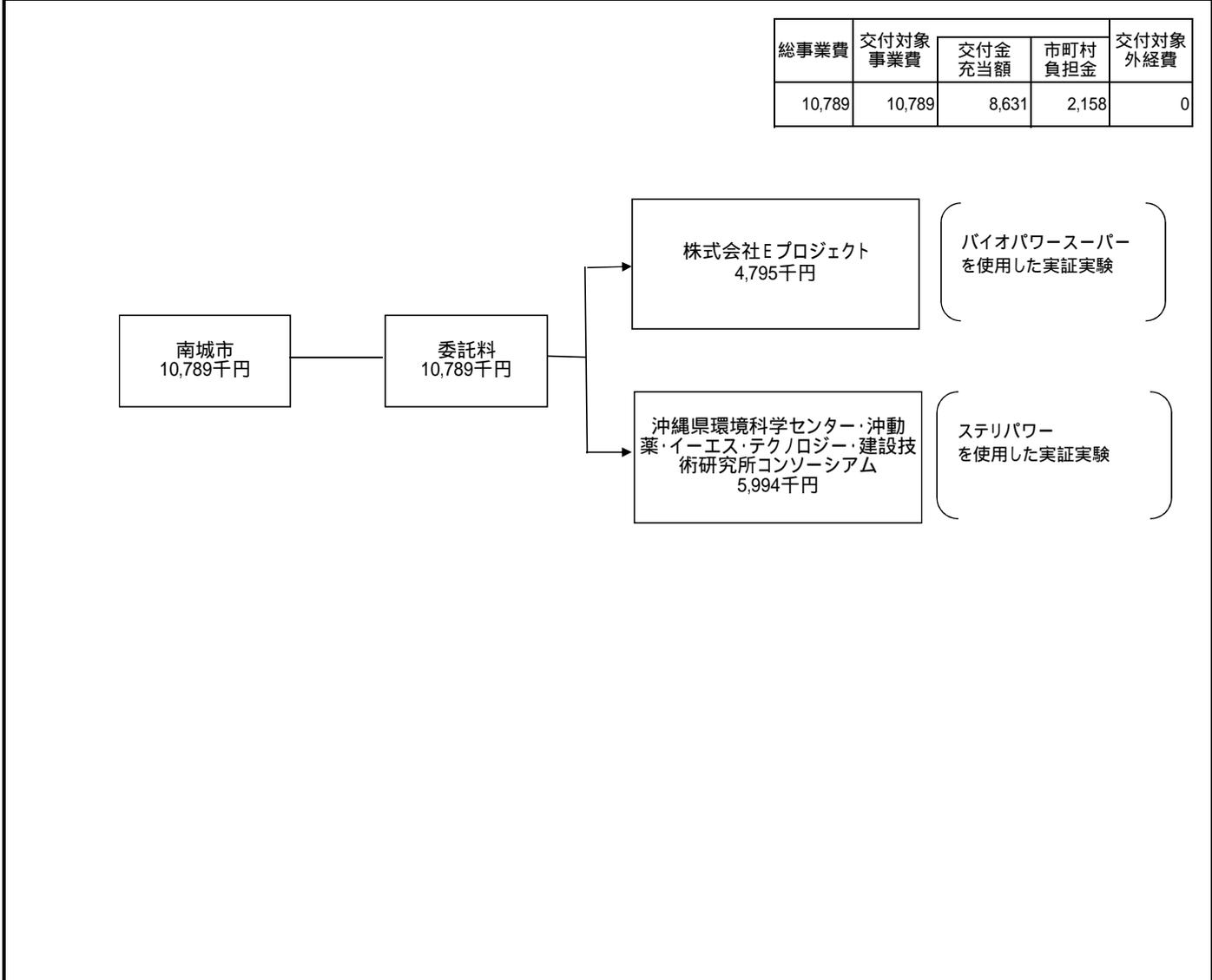
今後の取り組み方針

今後、夏場や他の種類の家畜への実証実験の実施を検討し、さらに、効果を実証できるように取り組んでいく。

また、農家への普及促進を図るにあたり、どのような課題があるのか、コスト面や作業面も含めて、さらに検討を重ね、農家への説明会を開催するなどして、南城市の農家実情に応じた普及を行えるよう努める。

今後も継続して畜産業の周辺環境改善に取り組み、他産業との共存関係も構築する土台となるように継続して問題解決に臨みたい。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検 評価 費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・委託については随意契約であるが、業者はプロポーザルにより選定した。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・プロポーザル方式により契約した結果、約10%不用額が生じたが、計画に沿って事業を執行でき、一定の目標を達成できたため、妥当であると考えます。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・委託事業であり、精算段階で検査を実施しており、費目、用途については、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名		南城市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 - 台風・大雨浸水被害対策事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-2-(4)-イ		
	土木建築部 都市建設課		事業実施(予定)年度	平成24～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化	
担当部課名						- 10 - (2)	
事業内容	災害に強いまちづくりの実現を図るため、地域の排水路における雨水の流入・流出ルート調査を実施する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	18,375	24,014	18,000		
		(b)予算現額	18,375	23,415	18,000		
		(c)増減額(b-a)	0	599	0		
		(d)繰越額	-	-	-		
	A.計(b+d)		18,375	23,415	18,000		
	B.執行済額		18,375	23,415	17,496		
	うち交付金充当額		14,700	18,732	13,996		
	次年度繰越額		-	-	-		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	97.2%		
予算の状況の説明		504千円の不用額が生じているが、入札残のためである。当初計画していた事業計画内容はすべて実施したので活動目標の達成状況を適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	南城市東部地区雨水流域調査	目標	(調査面積 463ha)	()	()	()	
		実績	調査面積 463ha				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	南城市東部地区の既設排水路における流入・流出及び排水能力の調査を実施し目標を達成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	南城市東部地区雨水流域調査完了 玉城・知念 A = 463ha	目標	()	(調査面積 463ha)	()	()	()
		実績		調査面積 463ha	()	()	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	H24年度 佐敷地区調査(617ha) H25年度 西部地区調査(810ha) h26年度 東部地区調査(463ha) 南城市全地区完了 地域の排水路における雨水の流入、流出及び排水能力を調査することで冠水箇所が判明した。その調査結果を基に冠水箇所の対策を検討して行く。					

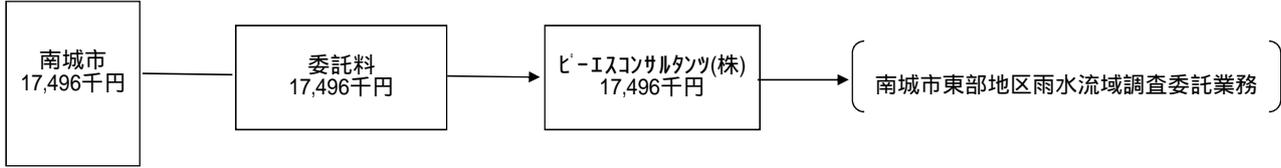
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	大雨時において玉城・知念地域で冠水被害があり、今年度において市内東部地区(玉城・知念)の雨水ルートの調査を実施することで冠水・浸水被害の究明ができた。	調査結果に基づいた、排水整備の立案。

今後の取り組み方針

市内全域の調査が終了し、南城市4地区(佐敷・大里・玉城・知念)の大型排水路の整備を計画的に行っていく。平成27年度に実施設計、平成28年度より整備し、自然災害や大雨時による浸水被害対策等を図っていく予定である。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
17,496	17,496	13,996	3,500	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支出先は、指名競争入札により、業者を選定しており妥当と考えている。 不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	南城市
------	-----

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3 -	水難救助車整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 2 - (4) - イ
担当部課名	総務部 総務課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				災害に強い県づくりと防災体制の強化
				- 10 - (2)

事業内容	各種水難救助用の資機材を装備した、水難救助車両を購入し、迅速・確実な水難救助活動を行うことで、観光客等を水難事故から守り、防災体制の強化を図る。
------	--

実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()
------	---

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	25,230				
	(b)予算現額	25,230				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	-				
	A.計(b+d)	25,230				
	B.執行済額	25,062				
	うち交付金充当額	20,049				
	次年度繰越額					
	執行率(%) (B/A)	99.3%				
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容はすべて実施し、順調に執行することができた。不用額168千円については指名競争入札による入札残である。					

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
		水難救助車整備:1台	目標 (水難救助車両一台購入)	()	()
	実績	水難救助車両一台購入			
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	水難救助車は海や川などの水に関する事故や災害に対応するための車両である。当消防の出動体制は、出動車両や資機材の選定・ウエットスーツの着替え等でかなりの時間を要していたが、水難救助車を整備したことにより迅速・確実な水難救助活動が可能となった。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
		水難救助車の納車:1台 納車後は非常時に備え日頃から訓練を実施し、万全の対策を期する。	目標 ()	(水難救助車一台納車)	()	()	()
			実績	水難救助車一台納車			
			目標	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	H27年2月に水難救助車を導入。導入後の出動件数は1件であったが、活動には至らなかった。訓練は月に3回程度を計画しており、これまで9回の訓練実績がある。						

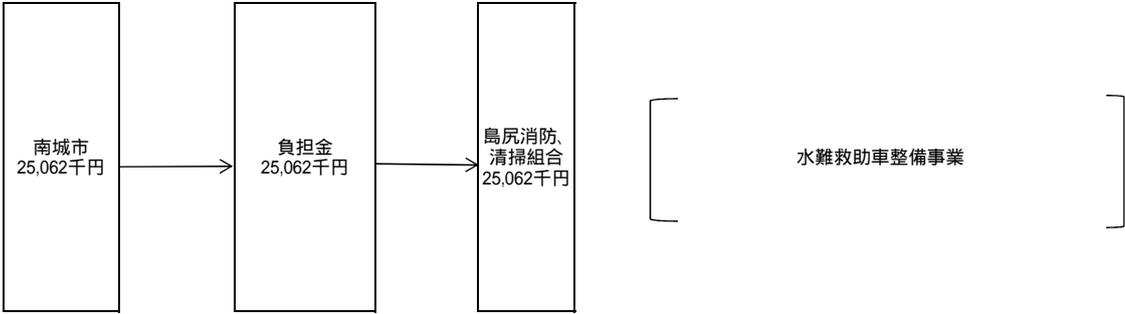
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>今回の計画車両を整備することにより、車内でウェットスーツに着替えるスペースの確保や各種水難救助用の資機材の充実により隊員が躊躇することなく、迅速・確実な水難救助活動が可能となった。</p> <p>水難救助車の導入後は、出動及び訓練後に塩害の影響を受けた車両・資機材等の保守管理を行い、常に災害時に備えて出動できる状況を維持しなければならない。</p>	<p>水難救助車に関する資器材等の管理体制を充実させ、安全かつ迅速に出動体制を確保することを徹底させる。</p>

今後の取り組み方針

3交替制・各警備(24時間勤務)に管理責任者を配置し、定期的な保守点検や管理体制を充実させる。定期的な訓練は勿論、水難救助に関する研修等を行うことで、隊員のスキルアップと安全面の徹底を図り、水難救助活動の円滑な運用を展開して地域住民及び観光客等の安全と被害の軽減を目指す。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
25,062	25,062	20,049	5,013	



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>・一部事務組合への支出で事業目的から妥当であったと考えている。</p> <p>・不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。</p> <p>・費目・用途については実績報告を精査し、目的に即した必要なものであったと判断した。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		南城市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4 -	幼小中学校学習教室空調設備整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ウ	
担当部課名	教育部 教育施設課	事業実施(予定)年度	平成24～26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	時代に対応する魅力ある学校づくりの推進 - 3 - (1)	
事業内容	児童・生徒の感受性豊かな人格形成を図るため、夏場においても、安全・快適な学習環境を保持できるよう空調設備を整備する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	1,414	10,341	5,306		
		(b)予算現額	582	10,341	5,306		
		(c)増減額(b-a)	832	0	0		
		(d)繰越額	-	-	-		
	A.計(b+d)		582	10,341	5,306		
	B.執行済額		582	9,824	5,130		
	うち交付金充当額		465	7,858	4,104		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	95.0%	96.7%		
予算の状況の説明		176千円の不用額が発生しているが、工事費の入札残によるものであり、事業計画内容はすべて実施し、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	空調設備整備工事	目標	(空調設置2台)	(空調設置18台)	(空調設置6台)	()	
		実績	空調設置2台	空調設置18台	空調設置6台		
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	幼稚園の保育室や中学校の特別教室(音楽室、美術室)へ空調機6台を設置し、活動目標(指標)が達成できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	・幼稚園 保育室1室 冷暖房設備2台設置完了 ・中学校 音楽室、美術室 冷暖房設備4台設置完了	目標	()	(空調設置2台)	(空調設置18台)	(空調設置6台)	()
		実績		空調設置2台	空調設置18台	空調設置6台	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	幼稚園の保育室や中学校の特別教室へ空調機6台を設置したことにより、夏場における安全・快適な学習空間が整った。その改善により、児童・生徒にゆとりが生まれ、集中力が持続し学力向上に大きく寄与することが見込まれる。						

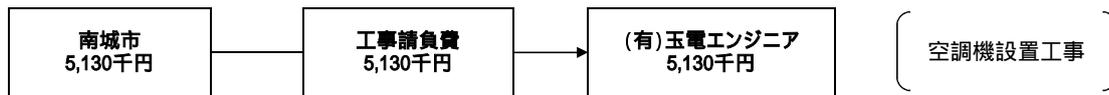
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	夏場における室内の気温が非常に高く、児童生徒の学習環境や健康面に支障をきたす恐れがあり、早急に改善するために空調機の整備を行う。また、環境にやさしいまちづくりのために、二酸化炭素削減等に向け取り組む必要がある。	再生可能エネルギー(太陽光発電等)の事業導入を検討し、電気代の軽減や地球温暖化防止を図る。

今後の取り組み方針

幼稚園において、夏場の保育室内温度が高く劣悪な環境になることがわかり、予算拡大と期間延長が必要となった。平成27年度に市内幼稚園において空調機2台を整備する計画である。また、維持管理費の軽減や、児童生徒への教育の一環として地球温暖化や環境について学べる機会を設けるため、再生可能エネルギー(太陽光発電等)の事業導入を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,130	5,130	4,104	1,026	



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支出先は、指名競争入札により、業者を選定しており妥当だと考えている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模については、事業計画内容をすべて実施し適正であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものなのかなどついて、支出などに関する書類により確認し、適正であった。
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南城市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4 -	小中学校パソコン機器整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育部 教育指導課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 - 3 - (1)	
事業内容	学校教育振興に資する学校教育用パソコンを小・中学校へ導入することで、児童・生徒がICTを活用する上で必要な知識・技能の習得や、また、様々な教科の中でICTを活用した学習活動に取り組むことにより、情報化社会に即応する技能を身につけた人材の育成を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	84,099	26,332			
		(b)予算現額	70,382	24,848			
		(c)増減額(b-a)	13,717	1,484			
		(d)繰越額	-				
	A. 計(b+d)		70,382	24,848			
	B. 執行済額		69,562	24,840			
	うち交付金充当額		55,649	19,872			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		98.8%	100.0%			
予算の状況の説明		不用額が1,484千円発生しているが、備品費の入札残によるものであり、H27.3月補正で予算1,484千円を減額した。当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	市立2小学校コンピューター教室パソコン及び附属機器等一式整備	目標	(302台)	(82台)	()	()	
		実績	255台	82台			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	南城市立2小学校コンピューター教室のパソコン機器等を整備拡充したことで、充実した授業を実践することが可能となった。 ・備品売買契約:24,840千円(H26.10.20締結) ・市立佐敷小学校コンピューター教室パソコン機器41台、他周辺機器一式整備 ・市立馬天小学校コンピューター教室パソコン機器41台、他周辺機器一式整備						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	市立2小学校コンピューター教室パソコン及び附属機器等一式整備完了 ・ブートサーバー4台、ADサーバー4台、プリンター2台、プロジェクター2台、パソコン82台、ソフトウェア等付属品一式	目標	()	(302台)	(左記機器の整備)	()	()
		実績		255台	左記のとおり機器整備完了		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	市内2小学校のパソコン教室パソコン及び附属機器等一式を整備したことで、各学年に対応した授業を実践することが出来た。 ・小学校低学年:パソコンに興味関心を引き出す ・小学校高学年:パソコンの基本操作の習得、各教科の調べ学習の向上 平成27年度に市内3小学校の当該機器等を整備することで、市内全小・中学校(全13校)の年次的整備が終了。 今後も、当該機器等を活用した授業を実践することで、児童・生徒がICTを活用する上で必要な知識・技能の習得は勿論、更に、学力の向上へ繋げたい。					

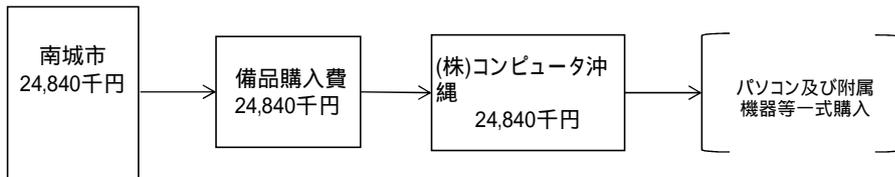
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>本市の児童・生徒の学力についてはこれまで、全国と比較すると大きく下回っており大きな課題となっていた。しかし、平成26年4月の全国学力学習状況調査において、本市小学校では、全国比0.7ポイント、県全体比で0.7ポイント上回っている。これは、本市児童・生徒の学力向上に向けた、当該機器等整備事業も含めた様々な対策に取り組んだ結果と考える。</p> <p>しかし、本市中学校では、依然として全国比8.8ポイント、県全体比で1.5ポイント下回っており課題となっている。</p> <p>コンピュータ教室の当該機器等の活用状況について、小学校低学年ではパソコンに興味関心を引き出す学習活動、小学校高学年ではパソコンの基本操作の習得等の学習活動で活用し、25%程度の活用率である。中学校では、パソコンの技能の習得等の学習活動等で活用し、19%程度の活用率となっていることから、更に有効活用を図る必要がある。</p>	<p>現在、当該機器等の活用について、コンピューター教室での学習活動に限定されている。そのため、当該教室及び機器等を更に有効に活用するため、電子黒板やタブレット端末等を整備することで、当該機器を活用したグループ学習や屋外での学習活動等、幅広い学習活動に取り組むことが可能となるため、整備する必要がある。</p>

今後の取り組み方針

平成27年度に市内3小学校の当該機器等を整備することで、市内全小・中学校(13校)の年次の整備が完了する。
 市内全小・中学校のコンピュータ教室の当該機器等の更なる有効活用を図るため、平成28年度より一括交付金を活用した新規事業として、年次計画的に市内小・中学校の全ての普通教室・特別教室等に電子黒板やタブレット端末等を整備する予定である。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
24,840	24,840	19,872	4,968	



資金の流 金の流れ、 点検、 費目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は指名競争入札方式により選定しており、妥当であったと考えている。 不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	南城市
------	-----

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4 -	学習支援員配置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア
担当部課名	教育部 教育指導課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				確かな学力を身につける教育の推進
				- 3 - (1)

事業内容
通常の授業についていけない児童・生徒への学習支援等を目的として、学級担任等の補助者として学習支援員を配置し、対象児童・生徒の習熟の程度に応じた指導や、一人ひとりの学習の定着状況に基づいたきめ細かな指導等、個々の実態に応じた学習支援を行う。

実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	17,728	17,964			
	(b)予算現額	17,728	17,964			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)	17,728	17,964			
	B.執行済額	14,185	15,084			
	うち交付金充当額	11,347	12,067			
	次年度繰越額	0	0			
	執行率(%) (B/A)	80.0%	84.0%			
予算の状況の説明	不用額が2,880千円発生しているが、H26.3月分賃金は市単独負担としたものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		25年度	26年度	27年度	28年度
		目標	()	()	()
小学校学習支援員:8名 中学校学習支援員:4名の配置	実績	8小学校: 学習支援員8名 4中学校: 学習支援員4名	8小学校: 学習支援員8名 4中学校: 学習支援員4名		
	目標	()	()	()	()
	実績				
	達成状況説明	市内各小・中学校へ各1名づつ配置し、学級担任及び教科担当教諭の補助者として、対象児童・生徒の学習支援を実施した。 ・市内8小学校:学習支援員8名 ・市内4中学校:学習支援員4名			

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)	
		目標	()	()	()	()	()
		実績		8小学校: 学習支援員8名	8小学校: 学習支援員8名 支援児童数294名を支援		
		目標	()	()	()	()	()
中学校:4校、支援生徒数135名 (支援員1名当り週25時間授業を行う。1授業当たり3名程度の生徒を支援する。)	実績		4中学校: 学習支援員4名	4中学校: 学習支援員4名 支援児童数135名を支援			
	目標	()	()	()	()	()	
	実績		4中学校: 学習支援員4名	4中学校: 学習支援員4名 支援生徒実績数140名			
	進捗状況説明	市内各小・中学校へ学級担任及び教科担当教諭の補助者として、対象児童・生徒への学習支援を実施したことで、学習意欲が高まり、それにより、学力の向上に繋がり、また、学級の運営も円滑になる。 ・市内8小学校:学習支援員8名配置(各校1名配置) ・市内4中学校:学習支援員4名配置(各校1名配置)					

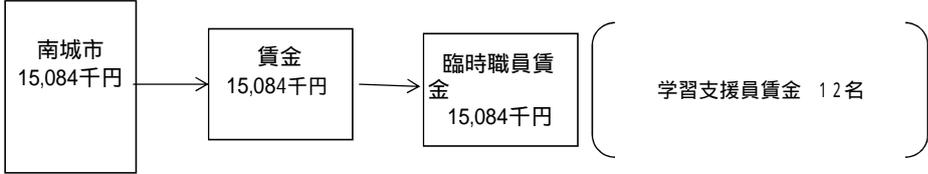
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>回っており大きな課題となっていた。しかし、平成26年4月の全国学力学習状況調査の平均正答率において、本市小学校で全国比0.7ポイント、県全体比で0.7ポイント上回った。これは、本市児童・生徒の学力向上に向けた、当該学習支援員配置事業を含めた様々な対策に取り組んだ結果と考える。</p> <p>しかし、本市中学校では、依然として全国比8.8ポイント、県全体比で1.5ポイント下回っており課題となっている。</p> <p>通常の授業についていけない児童・生徒は小・中学校の各学年、各学級に在籍するため、個々の実態に応じた適切な学習支援に取り組む必要がある。しかし、本市小・中学校規模は大小ある中において、学習支援員は1校に1名の配置であるため、教育の平等性の観点から学校間に格差が生じている現状がある。</p>	<p>各小・中学校へ学習支援員を配置し、担任教諭等と連携して授業を実践することで、当該児童・生徒の学習意欲の回復や基礎学力の定着が図られる。また、それにより、学級の運営が円滑になり、他の児童・生徒の学力向上にも繋がっていく相乗効果もあることから、当該事業を継続していく必要がある。</p> <p>学校規模により学習支援員の配置人数を考慮し、学習支援に取り組む必要がある。</p>

今後の取り組み方針

通常の授業についていけない児童・生徒は毎年、各小・中学校の各学年、各学級に在籍するため、当該児童・生徒の個々の実態に応じた適切な学習支援に取り組む必要があることから、今後も当該事業に継続して取り組んでいきたい。学校規模により学習支援員の配置人数を考慮し、適切な学習支援に取り組む必要があるが、人件費等も考慮し当該事業に取り組みたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
15,084	15,084	12,067	3,017	0



資金の 使途の 流れ、 費目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>学習支援員への応募者を面接し選定しているため、妥当であったと考えている。</p> <p>学習支援員について、南城市臨時職員の給与等に関する規則により任用しており、妥当であったと考えている。</p> <p>費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南城市										
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	4 - 特別支援教育・障害児ヘルパー配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(3)-ウ							
担当部課名	教育部 教育指導課		事業実施(予定)年度	平成25～29年度		時代に対応する魅力ある学校づくりの推進						
事業内容	学校教育法において、障害のある児童生徒等の教育の充実を図るため、小・中学校等に在籍する教育上特別の支援を必要とする児童生徒等に対して、適切な教育(特別支援教育)を行うことが明確に位置付けられ、それにより、障害のある児童生徒等の受入れ機会が増加しているところがあります。そのため、幼・小・中学校へ特別支援教育支援員や障害児ヘルパーを配置し、担任教師と連携の上、適切な特別支援教育を行う。											
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()											
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		
		(a)当初予算額	46,774	68,447								
	(b)予算現額	46,774	56,947									
	(c)増減額(b-a)	0	11,500									
	(d)繰越額	-	-									
	A.計(b+d)	46,774	56,947									
	B.執行済額	35,970	52,493									
	うち交付金充当額	28,775	41,994									
	次年度繰越額	0	0									
	執行率(%) (B/A)	76.9%	92.2%									
予算の状況の説明	不用額が4,454千円発生しているが、H26.3月分賃金は市単独負担としたものである。また、当該賃金の当初予算計上額の人員配置計画の変更や無給休暇等の余剰分をH27.3月補正で予算11,500千円を減額した。当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。											
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況									
			25年度	26年度	27年度	28年度						
	市立3幼稚園、8小学校、4中学校へ特別支援教育支援員、障害児ヘルパーの配置	目標	()	()	()	()						
		実績	・特別支援教育支援員2人 ・障害児支援ヘルパー45人	・特別支援教育支援員1人 ・障害児支援ヘルパー45人	()	()						
		目標	()	()	()	()						
		実績	・特別支援教育支援員2人 ・障害児支援ヘルパー52人	・特別支援教育支援員1人 ・障害児支援ヘルパー47人	()	()						
達成状況説明	市立幼・小・中学校から特別支援教育支援員や障がい児支援ヘルパーの派遣要望を受け、特別支援教育のためのヘルパー派遣要綱等に基づき、各関係機関の判定や関係者の合意形成等を踏まえ適正に配置した。 目標配置数を上回った要因は、小学校において当初配置計画で対象外の児童が、年度途中で関係機関の判定結果等により当該ヘルパーが必要となったため増員となった。 ・市立幼稚園障がい児支援ヘルパー7人配置 ・市立幼稚園預かり保育障がい児支援ヘルパー3人配置 ・市立小学校特別支援教育支援員1人配置 ・市立小学校障がい児支援ヘルパー28人配置 ・市立中学校障がい児支援ヘルパー9人配置											
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)					
	・3幼稚園へ障害児ヘルパー(保育)8名、(預かり保育)3名配置 ・8小学校へ特別支援教育支援員1名、障害児ヘルパー24名配置 ・4中学校へ障害児ヘルパー10名配置	目標	()	()	()	()	()	()				
		実績	・特別支援教育支援員2人 ・障害児支援ヘルパー45人	・特別支援教育支援員1人 ・障害児支援ヘルパー45人	()	()						
		目標	()	()	()	()	()	()				
		実績	・特別支援教育支援員2人 ・障害児支援ヘルパー52人	・特別支援教育支援員1人 ・障害児支援ヘルパー47人	()	()						
	進捗状況説明	市立幼・小・中学校へ特別支援教育支援員や障がい児支援ヘルパーを配置し、通常学級等に在籍する障害のある幼児・児童・生徒等に対し適切な対応を行うことで自立を促し、共生社会へ向けた「生きる力」を育成することが出来る。また、特別支援教育支援員や障害児支援ヘルパーと担任教師等との連携により、学級の運営が円滑になり、それにより他の児童・生徒の学力向上にも繋がっている。 目標配置数を上回った要因は、小学校において当初配置計画で対象外の児童が、年度途中で関係機関の判定結果等により当該ヘルパーが必要となったため増員となった。 ・市立5幼稚園障がい児支援ヘルパー7人配置 ・市立3幼稚園預かり保育障がい児支援ヘルパー3人配置 ・市立1小学校特別支援教育支援員1人配置 ・市立8小学校障がい児支援ヘルパー28人配置 ・市立4中学校障がい児支援ヘルパー9人配置										

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>市内各幼・小・中学校では、通常学級等に在籍する発達障害等で学習活動上での支援を必要とする幼児・児童・生徒や、食事、排せつ、教室の移動補助等、学校における日常生活等の介助を必要とする幼児・児童・生徒が増加している状況がある。</p> <p>そのため、市内各幼・小・中学校に在籍する当該幼児・児童・生徒に対し、特別支援教育支援員や障がい児支援ヘルパーを配置し、担任教諭等との連携により、適切な対応を行ったことで、当該幼児・児童・生徒が障がいから生ずる個々の困り感を克服し、落ち着いて学習活動に取り組めるようになるなど、自立を促すことが出来た。</p> <p>しかし、当該幼児・児童・生徒の障害の程度及び成長には個人差があることから、毎年、個々の実態に応じた適切な対応等、充実した特別支援教育への取り組みが必要である。</p>	<p>特別支援教育支援員や障がい児支援ヘルパーは、特別支援教育等の知識やスキルアップが必要不可欠であり、それにより、当該幼児・児童・生徒に対し、適切に対応することで信頼関係が構築され、当該幼児・児童・生徒が障がいから生ずる個々の困り感を克服し、落ち着いて学習活動に取り組めるようになっていく。</p> <p>本市教育委員会では、特別支援教育支援員や障害児支援ヘルパー連絡会を開催し、その中で様々な障がいなどに対する理解を深められるよう、学習会や情報交換会を実施している。今後も、当該研修会等を実施し、また、各幼・小・中学校に在籍する当該幼児・児童・生徒の実態に即し、適切に当該支援員やヘルパー等を配置するなど、当事業を継続し実施していく必要がある。</p>

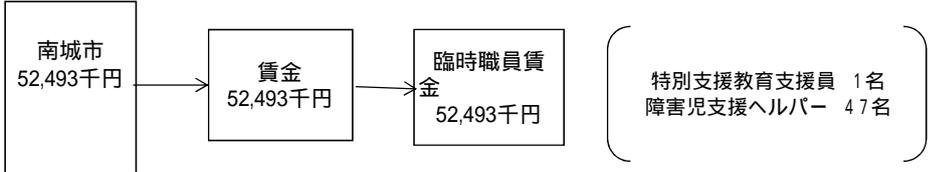
今後の取り組み方針

市立幼・小・中学校から特別支援教育支援員や障がい児支援ヘルパーの派遣要望を受け、特別支援教育のためのヘルパー派遣要綱等に基づき、各関係機関の判定や関係者の合意形成等を踏まえ適正に当該特別支援教育支援員や障害児ヘルパーを配置し、通常学級等に在籍する障害のある幼児・児童・生徒に対し、担任教諭等と連携を図り適切な対応を行うことで、自立を促し共生社会へ向けた「生きる力」を育成することが出来る。

当該幼児・児童・生徒は毎年、各幼・小・中学校の通常の学級に在籍することから、個々の実態に応じた適切な特別支援教育に取り組むことで、学級の運営が円滑になり、それにより他の幼児・児童・生徒の学力向上等への相乗効果も期待出来ることから、今後も継続して当該事業に取り組んでいきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
52,493	52,493	41,994	10,499	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 費目 ・ 費目 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	特別支援教育支援員・障害児ヘルパーへの応募者を面接し選定しているため、妥当であったと考えている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	特別支援教育支援員・障害児支援ヘルパーについて、南城市臨時職員の給与等に関する規則により任用しており、妥当であったと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

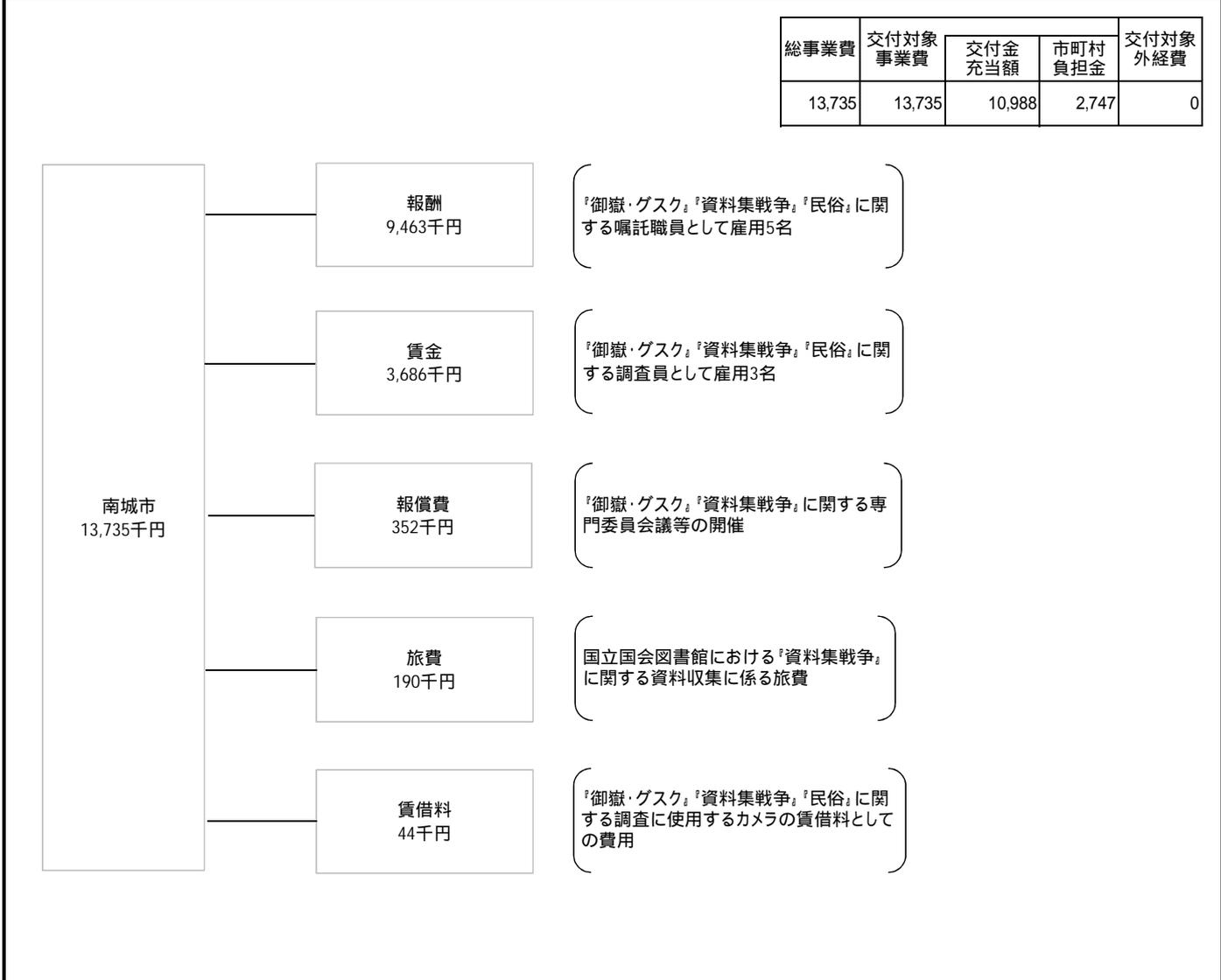
市町村名		南城市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5 - なんじょう歴史文化保存継承事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章 - 1 - (4) - ア		
	教育部 文化課		事業実施(予定)年度 平成24～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所		
担当部課名	教育部 文化課		事業実施(予定)年度 平成24～29年度		- 3 - (2)		
事業内容	本市は神の島久高島や世界遺産「斎場御嶽」、国指定文化財のグスク等、歴史遺産や琉球王国時代から引き継がれた精神文化遺産が今も数多く残る地域である。これら貴重な文化遺産を後世に引き継ぐことを目的に、なんじょう歴史文化保存継承事業を実施する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	10,599	8,880	16,641		
		(b)予算現額	6,343	8,880	16,641		
		(c)増減額(b-a)	4,256	0	0		
		(d)繰越額	-	-	-		
		A.計(b+d)	6,343	8,880	16,641		
	B.執行済額		6,343	8,302	13,735		
	うち交付金充当額		5,075	6,641	10,988		
	次年度繰越額		-	-	-		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	93.5%	82.5%		
予算の状況の説明		不用額2,906千円のうち、1,972千円は調査員を賃金職員として4名雇用する予定だったが、年度途中雇用者2名を含めて3名の雇用となったためのものである。748千円は専門委員との日程調整がつかず、会議に出席する委員の人数が少なかったためのものである。その他186千円は嘱託職員の欠勤による減額分や旅費の差額分等である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	・専門委員会議の開催 『御嶽・グスク』5回 『資料集戦争』5回 調査資料の収集及び調査	目標	(『御嶽・グスク』5回 『資料集戦争』5回)	(『御嶽・グスク』5回 『資料集戦争』5回)	()	()	
		実績	『御嶽・グスク』8回 『資料集戦争』3回	『御嶽・グスク』6回 『資料集戦争』4回			
			目標	()	()	()	
			実績				
達成状況説明	専門委員会議を行い、南城市の御嶽・グスク、戦争資料に関する調査等を行った。 『御嶽・グスク』に関しては、5回予定の内、4回は会議を行った。また2回は専門委員とともに調査を行った。 『資料集戦争』に関しては、5回予定の内、3回は会議を行った。また1回は専門委員とともに調査を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	・『御嶽・グスク』調査個票の完成 『資料集戦争』国立国会図書館より米国資料の収集	目標	()	(調査個票の完成 米国資料の収集)	()	()	()
		実績		調査個票作成中 米国資料収集済			
			目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	『御嶽・グスク』に関しては、すべての集落を一度調査した。その後、専門委員との調査個票(個別調査票)の内容の精査を行う段階で、内容の精度を高めるために追加調査の必要性が浮上し、さらなる調査を進めている。 『資料集戦争』に関しては、収集しようと予定していた国立国会図書館の米国資料を収集することができた。今後は収集した資料を翻訳する必要がある。今回の資料収集に関しては、事前の予備調査を十分に行ったことが事業を円滑に進めることができた要因であると考えられる。今回の資料を精査し、さらに資料収集が必要な場合、収集を行う。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県は戦争によって多くの歴史的資料、史跡等が滅失・破壊された。そして戦前の記憶や戦争などの体験知識を持つ人は年々減少する。そのため、いかに正確で充実した調査、保存を行うか工夫が必要である。 ・本市に点在する御嶽・グスクを調査した調査個票(個別調査票)について、市と専門委員との精査の中で、より詳しく調査を要する集落や項目が検討され、追加調査が必要となっている。 ・これまで調査してきた調査個票(個別調査票)は紙ベースで保存していたため、今年度PCでのデータ化し、PCでの資料整理・保管が可能となっている。 ・『資料集 戦争』に関しては、国立国会図書館から収集した米国資料の翻訳が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集落や項目のより詳しい調査については、区长・老人会長等から紹介を受けた人物に聞き取り調査を行う。あるいは、専門委員と同行して調査を行うことで調査内容の精度が上がると考える。 ・米国資料の翻訳を専門委員、委託業者、南城市いずれかでできるか検討している。

今後の取り組み方針

追加調査が必要な集落、項目を調査し整理する。また、専門委員と同行して調査することで内容の精度を上げ、市民等へより充実した内容を伝えることができるとともに、これまで引き継がれてきた文化遺産を次代へ継承していけると考える。国立国会図書館より収集した米国資料に関しては、翻訳を進める体制を整える。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流、点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流、点検評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支出先は、御嶽・グスク、資料集戦争、民俗に関する調査、資料収集に必要な嘱託職員、賃金職員、専門委員への人件費や旅費、賃借料であり、妥当である。</p> <p>○不用額2,906千円は賃金職員の1名の欠員の分と専門委員の会議への欠席の分である。</p> <p>○費目・用途については、額の確定時に支出等に関する書類により確認しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南城市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5 - 文化センター機能強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(4)-ウ		
	文化活動を支える基盤の形成						
担当部課名	企画部 まちづくり推進課		事業実施(予定)年度	平成25～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	-3-(2)
事業内容	本市における地域伝統文化及び市内イベントの拠点として文化芸術創造の発信を行っている文化センターの機能強化を図るため、空調及びホールの照明機器の整備を行う。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	73,480	153,101			
		(b)予算現額	73,480	144,612			
		(c)増減額(b-a)	0	8,489			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	73,480	144,612			
	B.執行済額		71,670	144,612			
	うち交付金充当額		57,336	115,689			
	次年度繰越額		-	-			
	執行率(%) (B/A)		97.5%	100.0%			
予算の状況の説明		不用額が8,489千円発生しているが、入札残によるものであり、補正で減額した。当初計画していた事業内容は全て実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	工事入札契約、工事着手	目標	(工事入札契約、工事着手)		()	()	
		実績	工事完了				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	南城市文化センターシュガーホールの空調設備取替工事、舞台装置取替工事を完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	文化センター機能整備の実施、完了	目標	()	(整備実施)	()	()	()
		実績		完了			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	シュガーホール舞台装置・空調設備取替工事を完了したことで機器本体の機能向上を図ることができ、観客・出演者・使用者に良質な環境の提供が可能となった。					

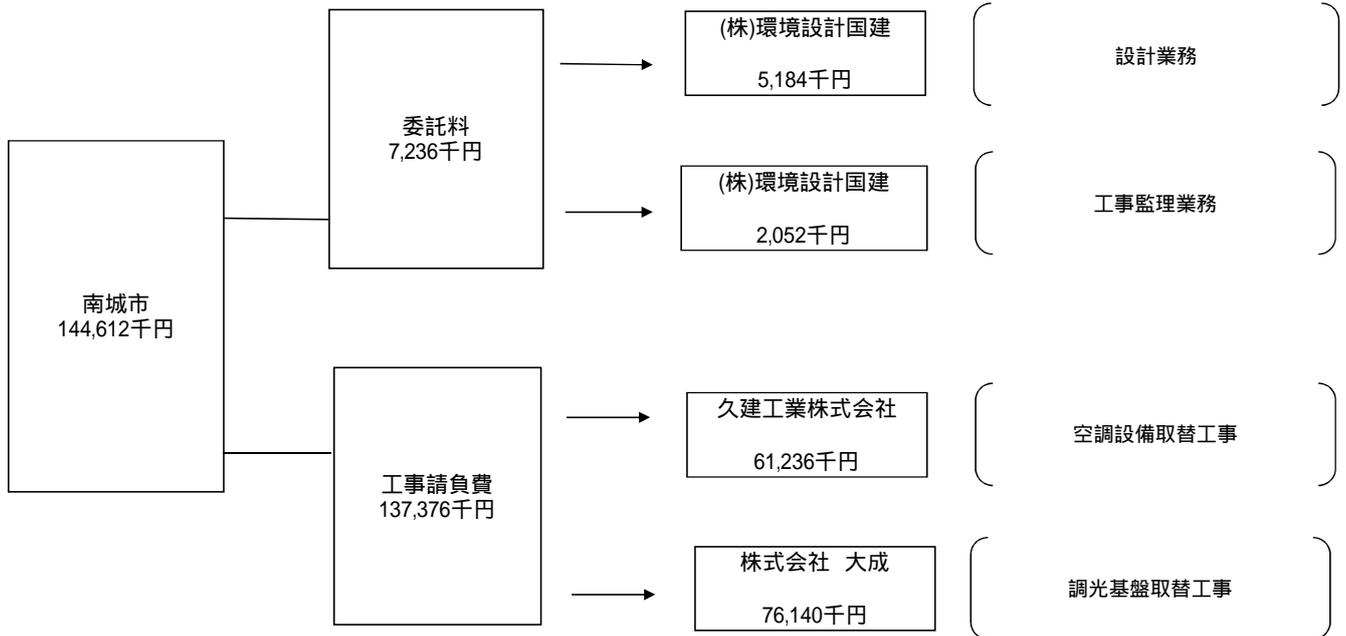
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	事業執行において、ホール休館期間を設けなければならないが、休館期間中の借用予約の問い合わせが相次いだため、それにより利用者との調整が必要となった。また、工事が同時期に2件あったため、工事業者との日程調整等が必要となった。	事業施行について、南城市及び工事受注業者と十分に日程調整を図り、工事工程に基づき、利用希望者への周知も図りながら休館期間を検討していく必要がある。

今後の取り組み方針

県内唯一のクラシック専用ホールであるシュガーホールを今後の市民芸術創造発信の拠点として活用していくためにも施設全体のさらなる向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
144,612	144,612	115,689	28,923	



資金の 用途の 流れ、 費目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	工事請負業者等は指名競争入札で選定・南城市契約規則に準じており、妥当だったと考えている。 予算規模については、当初計画していた事業内容はすべて実施しており適正な規模であった。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

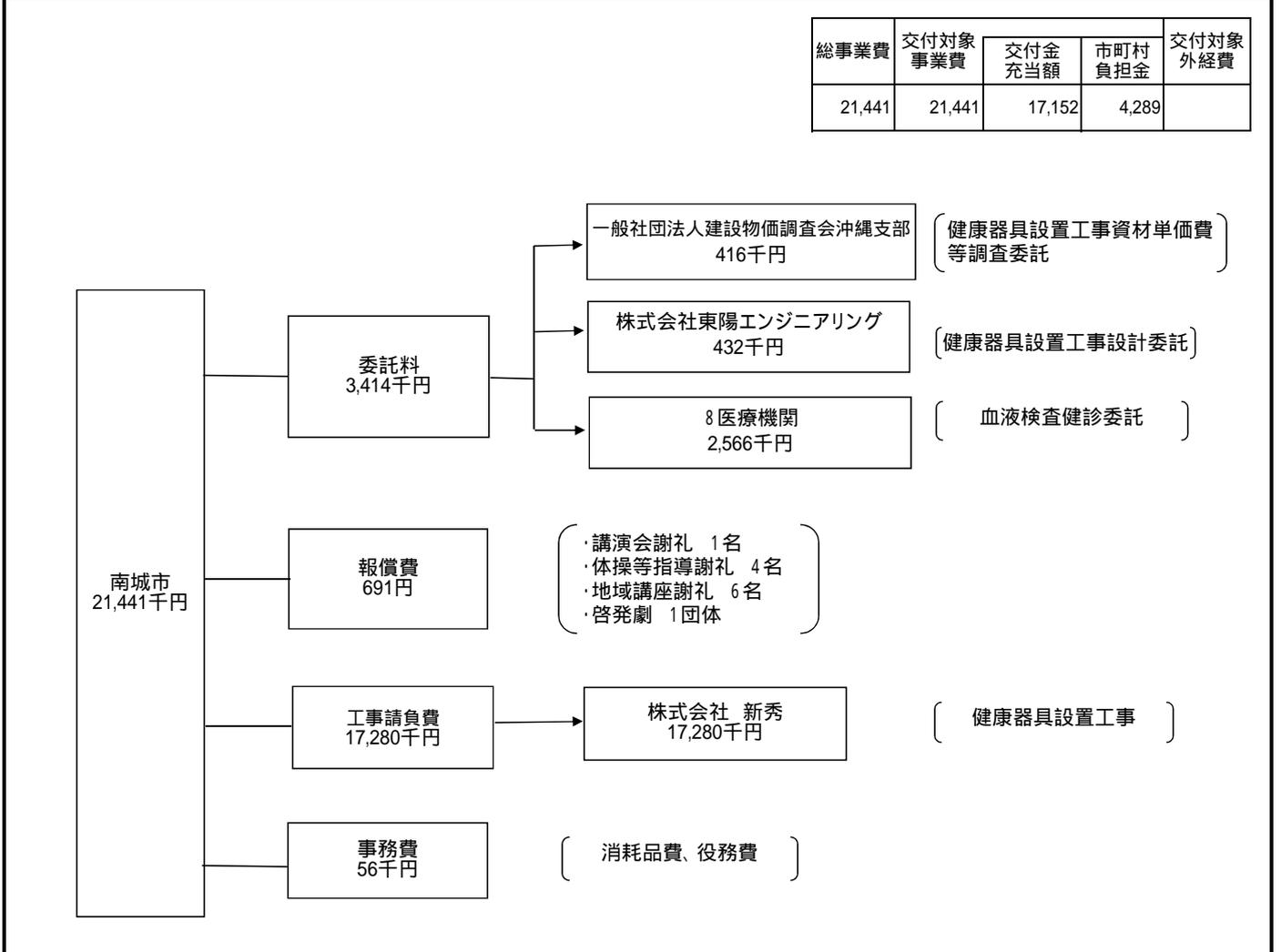
市町村名		南城市						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	5 - シュガーホール国際音楽祭事業(20周年記念事業)		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(5)-ア			
	文化資源を活用したまちづくり							
担当部課名	企画部 まちづくり推進課		事業実施(予定)年度	平成26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	-3-(2)	
事業内容	沖縄県内唯一の音楽専用ホールとして、これまで多くの創造的な文化事業を展開し、おきなわのシュガーホールとして知られるようになってきたこれまで実績を生かし、多様な目的をもって訪れる県内外の人々をターゲットとし、本市の自然・歴史とホールの文化芸術事業を連携させた全国的・国際的な一連事業を実施していく。							
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	20,000					
		(b)予算現額	20,000					
		(c)増減額(b-a)	0					
		(d)繰越額	-					
		A.計(b+d)	20,000					
	B.執行済額		20,000					
	うち交付金充当額		16,000					
	次年度繰越額		-					
	執行率(%) (B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		当初予定公演事業の公演数が増えているが、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度		
	主要イベントへの運営費補助 9件	目標	(9件)	()	()	()		
		実績	13件					
		目標	()	()	()	()		
		実績						
達成状況説明	シュガーホール国際音楽祭事業(開館20周年記念)として南城市文化センターで開催した13公演について、必要経費の一部を補助した。追加した4件については、本事業を推進していく上で、本事業に組み入れることが妥当と判断したことから、各事業費を精査した上、予算の範囲内で実施した。 ・シュガーホール新人演奏会・シュガーホール国際音楽祭開会式典・組歌「おきなわ」・9th Jazz in Nanjo・ファジル・サイ ピアノリサイタル・韓国民俗芸能「サムルノリ」・市民音楽「コーラスの絆」・久保陽子&弘中孝ジョイント・リサイタル・笑いはつづくGO ON! GO ON!・N響メンバーによるプラス・クインテット・組踊「手水の縁」・学校出前事業・風の又三郎							
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年	27年度	28年度	目標値(年度)	
	新人演奏会受賞者による公演 ・優れた国内・海外演奏家による公演 ・市民合唱団と県内外合唱団の交流演奏会	目標	()	(左記に目標に基づき事業を実施)	()	()	()	
		実績		左記の成果目標に基づいて13公演を実施した				
		目標	()	()	()	()	()	
		実績						
	進捗状況説明	本事業では、当初予定していた公演数より4公演増の13公演を実施した。開館20周年を迎え、シュガーホール国際音楽祭として多くの事業を実施。新人演奏会受賞者による公演(シュガーホール新人演奏会・学校出前事業)、国内外のアーティストによる公演(ファジル・サイピアノリサイタル・N響メンバーによるプラス・クインテット、久保陽子&弘中孝ジョイント・リサイタル)、市民合唱団と県内外合唱団の交流(市民音楽祭「コーラスの絆」、海外伝統芸能と地域伝統芸能の公演(韓国民俗芸能「サムルノリ」、組踊「手水の縁」、オーケストラと伝統芸能の競演(シュガーホール国際音楽祭開会式典)のほか、ミュージカルなど多彩な公演(組歌「おきなわ」・9th Jazz in Nanjo・笑いはつづくGO ON! GO ON!・風の又三郎・創作オペラの制作)を展開することで、市民をはじめ、県内外からも多くの来場者を迎えることができた。						

市町村名		南城市					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6 -	健康づくり支援調査検証事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-ア	
担当部課名	市民部 健康増進課	事業実施(予定)年度	平成25～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の食や風土に支えられた健康づくりの推進 - 4	
事業内容	市民の健康づくりを支援するため、健康教室等の開催、公園等への健康器具等の設置及び、生活習慣病予防対策、保健指導等を実施するとともに、その効果等について調査検証する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	10,376	22,503			
		(b)予算現額	10,376	22,503			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	10,376	22,503			
	B.執行済額		9,304	21,441			
	うち交付金充当額		7,442	17,152			
	次年度繰越額		-	-			
	執行率(%) (B/A)		89.7%	95.3%			
予算の状況の説明		不用額1,062千円の主な要因は、血液検査524千円(500人の予定に対し418人)、設置工事入札残206千円、旅費183千円の皆減、報償費61千円の減、消耗品34千円の減、設計委託料54千円の減によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	・講演会、健康体操等の実施 34回 ・健康器具の設置工事設計及び3公園等への健康器具設置	目標	(24回、1箇所)	(34回、3公園)	()	()	
		実績	23回、1箇所	25回、3公園			
	・中学生を対象とした健康調査及び保健指導の実施	目標	(500人)	(500人)	()	()	
		実績	436人	418人			
達成状況説明	講演会、健康体操等の開催は、著名講師等の確保や参加者集めの困難から34回中25回と74%の達成である。健康器具設置(3公園)は、目標を達成した。最近若年者肥満の懸念があり、中学生の血液検査を実施したが、保護者が健康づくりに関心のある児童生徒の受診となり目標値500人中418人と84%となった。事後、市保健師と市栄養士による保健指導として、生徒自身が健康について興味、関心を持たせる講話を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	・講演会、健康体操等の実施及び効果の評価検証 ・3公園等への健康器具の設置完了	目標	()	(24回、1箇所)	(34回、3公園)	()	()
		実績		23回、1箇所	25回、3公園		
	・中学生(約500名)を対象とした保健指導の評価検証	目標	()	(500人)	(500人)	()	()
		実績		436人	418人		
	進捗状況説明	講演会、健康体操等の実施は、著名講師等の確保や参加者集めの困難から、25回の開催となった。内訳(講演2回、体操等7回、地域講座6回、健康劇10回)。 ・健康器具は、グスクロード公園・大里内原公園・海野漁港多目的広場の3公園に設置した。 ・中学生血液検査健診については、保護者が健康づくりに関心のある児童生徒の受診となり目標値を下回ったが、有所見者の譲許が全体的に改善している。 ・事後保健指導では、保護者の同意が得られなかったことから目標値を下回ったが、生徒自身の健康状態と食事との関係について講話をした。講和後の生徒アンケートから、日常の食生活を見直す良い機会をつくることのできたと考えられる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>肥満解消や生活習慣病予防対策のため健康教室等を開催し、市民の健康づくりに取り組むとともに、子どもの肥満も増えていることから中学生を対象とした血液検査及び保健指導等を実施した。</p> <p>健康教室等の開催にあたり、著名講師等の確保や参加者集めが難しい、中学生血液検査健診については、保護者が健康づくりに関心のある児童生徒の受診となり受診者が目標より下回ったが、受診した児童生徒の検査結果を平成25年度と比べて、有所見者の状況が全体的に改善が見られた。</p>	<p>健康教室等の開催については、講演会の開き方の工夫で講師の確保や、区のイベントに合わせた開催や、市民が参加したいと思うようなテーマにする等で、参加者の増加を図る。</p> <p>中学生血液検査健診については、親子ともに関心をもたせることができるよう広報等で周知を強化していく必要がある。</p>

健康教室等は、各地域の区長、女性会、PTA等と協議しながら、講演会の開き方を工夫し、効果的な地域講座を展開する。中学生の血液検査健診については、保健指導等とおして親子ともに意識づけを行う。また、受診率向上を目指し、広報等対象家庭への周知を強化していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 用、 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者及び工事請負は、本市契約規則により随意契約、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。随意契約については、指名競争入札を行った結果、1社以外が辞退したため随意契約となった。不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	